

生徒指導の三機能に手立てを分類した授業支援シート

ティーナック 「T-knackシート」



生徒指導の三機能に手立てを分類した授業支援シート「T-knackシート」について

児童の問題行動やいじめへの対応が大変で、日々追われてしまう。時間の余裕もないし…。よい方法はないのかな。

日々起こる生徒指導の諸問題を解決していくことはとても大切なことです。でも、それだけでは、起こった生徒指導に対応しているだけ。積極的な生徒指導をしていかないと…。

積極的な生徒指導って、どういうことをすればいいの？

学校教育活動全体で児童の自己指導能力を育成しましょう。その中でも、授業の時間が一番長いから、この時間を充実させていきましよう。

授業で児童の自己指導能力を育成すれば、学校生活全般を落着かせ、問題行動やいじめのない学級に変えることができると考えます。

それでは、どのような視点をもてば、自己指導能力を育成することができるのでしょうか。

それでは、自己指導能力とは何ですか。

簡単に言うと、その時、その場でどのような行動がよいか自分で考えて、決めて、行動する能力のことを言います。

なるほど、じゃあその能力を育成するには、どうしたらいいのかな？

教科指導

教材分析・解釈

ねらい

1時間の授業

学習課題

見通し

言語活動

かかわり

まとめ

振り返り

評価

生徒指導

自己指導能力

自己決定の場を与える

共感的人間関係を育成する

自己存在感を与える

教科指導と生徒指導の両方のバランスが大事です。

生徒指導の三機能に手立てを分類した授業支援シート「T-knackシート」について

授業者が生徒指導の三機能

「自己存在感を与える」

「共感的人間関係を育成する」

「自己決定の場を与える」

を生かした指導を意識して意図的に取り組みましょう。

なるほど。でも、ねらいも達成させながら
生徒指導も行わなくてはならないのは大変
ですね。

そんなことないですよ。どの教科の学習でも、内
容だけを教えているわけではないですよ。学び方
を身に付けさせたり、規律や態度、学級の支持的
風土を育てたりして、落ち着いた授業をしているで
しょ。例えば…

先生が児童に励ま
しの言葉をかけたり、
ほめたりして、やる
気を出させているで
しょ。

それから、隣同士
やグループでの話
合いで、互いを認め
合う場や機会をつ
くっているでしょ。

実際、どの先生もやっていることです。
何も特別なことをするってことはないんです。

なんだ、そういうことか！一つ一つのことを意識
して意図的に取り組み始めたいってことなんですね。
それならば、生徒指導の三機能を生かした手立
てを取り入れて授業ができそうです。

教師が生徒指導の三機能を生かした指導
を意識して意図的に取り入れることが、児童
の自己指導能力を育成することになります。

実際には、どういった取組が特に大切だ
と考えられますか。

教師の言葉かけによる児童との良好な
人間関係、児童同士の学び合いによるより
良い人間関係づくりを目指すことです。

そして、「一人一人の児童をかけがえの
ない存在として大切にすること」という教師の思
いを児童に伝えることです。

確かに。こういう思いを児童はすぐに察知
します。他者から「自分が大切にされてい
る」ことが実感できると、自分自身のことや
相手のことを大切にすることができます。

そうすると、一人一人の児童が安心感の
もてる、居心地のよい学級にすることがで
きます。

「T－knackシート」

目 次

A 自己存在感を与える		B 共感的人間関係を育成する	C 自己決定の場を与える
A1	顔を観る	B1 優しさ	C1 教材・教具の提示の工夫
A2	名前を呼ぶ	B2 厳しさ	C2 発問の工夫
A3	発言の受け止め	B3 一人一人の児童を大切にすること	C3 考えたり観たりする視点の提示
A4	ほめる	B4 児童への接し方	C4 指示・説明
A5	認めてほめる	B5 学習の規律	C5 一人学習の設定
A6	期待する・励ます	B6 教師の「聴く」	C6 個に応じた指導
A7	存在感をもたせる	B7 ありのままの児童を受け入れる態度	C7 学習スタイルの選択
A8	やる気を促す対応	B8 児童同士の聞き合い	C8 ペア・グループ学習
A9	発問の工夫	B9 教師の「つなぐ」	C9 自分の考えを発表する
A10	机間指導	B10 授業の開始時刻と終了時刻を守る	C10 教育機器の活用
A11	一人一人の児童を生かす	B11 ペア・グループ学習	C11 振り返り
A12	ペア・グループ学習	B12 話合いの仕方・評価	C12 ノート指導
A13	多様な考えにふれさせる	B13 机間指導	
A14	適切な評価	B14 学習環境の設定	
		B15 安全な生活	
		B16 板書計画	
		B17 声を出す習慣	
		B18 相互評価	
		B19 教師からの評価	
		B20 指名の仕方	
		B21 児童の進度を見る	



「T-knackシート」の見方

A 自己存在感を与える

B 共感的人間関係を育成する

○ 自己決定の場を与える

A: 自己存在感
B: 共感の間
C: 自己決定

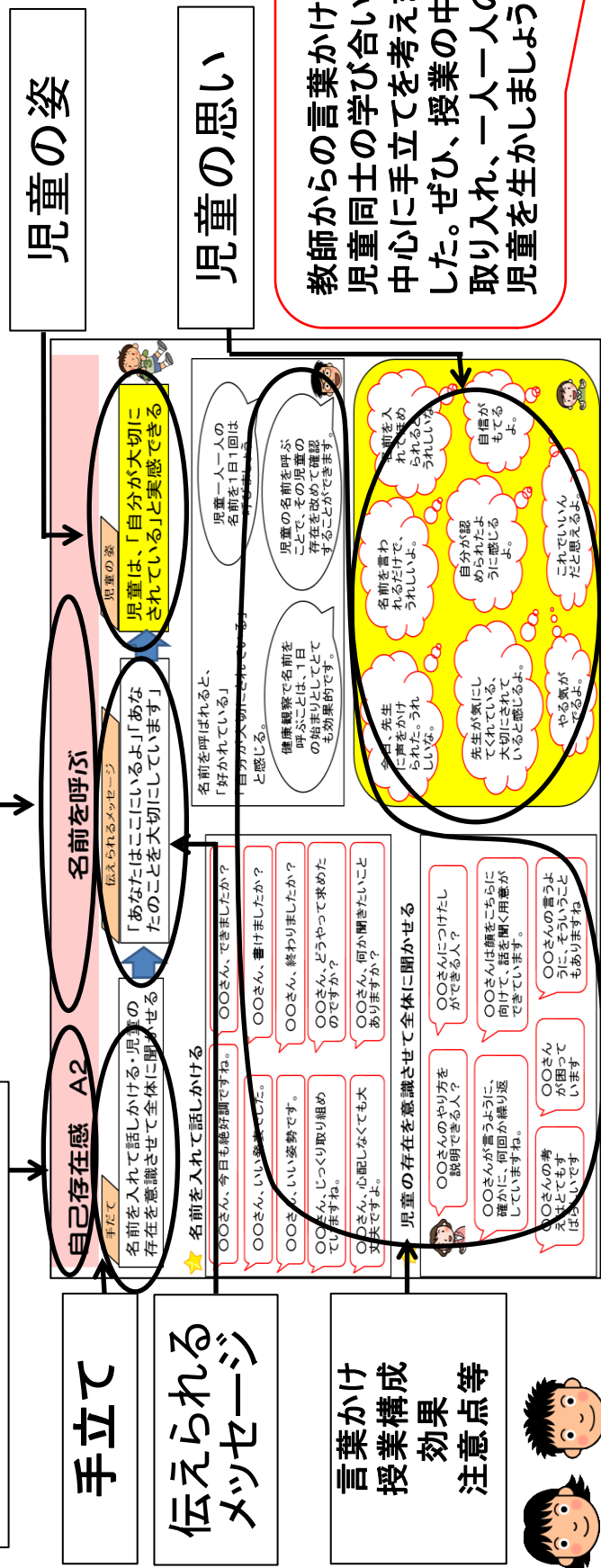
T-knackシートへの支援を1ページごとにまとめました

支援の項目

児童の姿

児童の思い

教師からの言葉かけや
児童同士の学び合いを
中心に手立てを考えま
した。ぜひ、授業の中
取り入れ、一人一人の
児童を生かしましょう。



A 自己存在感を与える



手立て

一人一人の児童と目を合わせる

伝えられるメッセージ

「あなたのことを見えていますよ」
「あなたのことを大切に思っていますよ」

児童の姿

児童は「自分がここにいます」と実感できる



教室全体を見渡すとき、一人一人の児童へ目を向ける。児童の目を見て話す。

★一人一人の児童と目を合わせる

児童の表情や動きに目配りする

あーあ、友達とけんかし
ちゃった、もういやだな…。

おやっ？あれっ？
元氣ないな。

どうしようかな、先生に
言ってみようかな。

うっ、うん。
友達とけんかしちゃったんだ…。

話しかけるととき、心掛けよう

- ・やわらかく、聞き取りやすい声
- ・語尾が明瞭、命令はしない
- ・相手の話すリズムに合わせる
- ・微笑む、優しいまなざし
- ・前傾姿勢
- ・正面を向く、隣り合って座る

声かけと
ともに、教
師の態度
が大切で
す。

一人一人に目が向けられなかった
場合、声がかけられなかった場合

次の時間や次の日
に先に声をかける

この時間、〇〇
さんに声かけら
れなかったな。次
の時間は最初に
声をかけよう。

〇〇さん、あんな
こと言っていたな、
その後どうしたか
聞いてみよう。

今日は、全員に声かけ
する時間がなかったな。
明日は、机間指導の時
間を多めにしよう。

先生って、
ぼくのこと、
よく見てく
れている
んだな。

ぼくが悩んで
いるの、わ
かってくれた
んだ。大切に
されていること
が分かるよ。

先生がぼく
のこと、気
にしてくれ
ているんだ。

手立て

名前を入れて話しかける・児童の存在を意識させて全体に聞かせる

伝えられるメッセージ

「あなたはこちらにいるよ」「あなたのことを大切にしています」

児童の姿

児童は、「自分が大切にされている」と実感できる



★ 名前を入れて話しかける

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 〇〇さん、今日も絶好調ですね。 | 〇〇さん、できましたか？ |
| 〇〇さん、いい発表でした。 | 〇〇さん、書きましたか？ |
| 〇〇さん、いい姿勢です。 | 〇〇さん、終わりましたか？ |
| 〇〇さん、じっくり取り組みていますね。 | 〇〇さん、どうやって求めたのですか？ |
| 〇〇さん、心配しなくても大丈夫ですよ。 | 〇〇さん、何か聞きたいことがありますか？ |

★ 児童の存在を意識させて全体に聞かせる

- | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 〇〇さんの考えはとてもすばらしいです。 | 〇〇さんのやり方を説明できる人？ | 〇〇さんにつけたしができる人？ |
| 〇〇さんが言うように、確かに、何回か繰り返ししていますね。 | 〇〇さんが顔をこちらに向けて、話を聞く用意ができています。 | 〇〇さんは顔をこちらに向けて、話を聞く用意ができています。 |
| 〇〇さんの言うように、そういうこともありますね。 | 〇〇さんが困っています。 | 〇〇さんの言うように、そういうこともありますね。 |

名前を呼ばれると、
「好かれている」
「自分が大切にされている」と感じる。

健康観察で名前を呼ぶことは、1日の始まりとしてとても効果的です。

児童一人一人の名前を1日1回は呼びましょう。

児童の名前を呼ぶことで、その児童の存在を改めて確認することができま



今日、先生に声をかけられた。うれしいな。

名前を言われるだけで、うれしいよ。

名前を入れてほめられると、うれしいな。

先生が気にしてくれている、大切にされていると感じるよ。

自分が認められたように感じるよ。

自信がもてるよ。

やる気ができるよ。

これでいいんだと思えるよ。



手立て

どんな発言も受け止める
つぶやきに返す

伝えられるメッセージ

「あなたのことを分かっていますよ」
「あなたはそうなんですね」

児童の姿

児童は、「分かっている」と実感できる



☆どんな発言も受け止める

なるほど。

たしかに。

そういうこともあるね。

そういうことですね。

それ、いい考えですね。

うん、うん。

☆つぶやきに返す

児童のつぶやき

笑顔で、すかさず返す

〇〇になっていたわ。

〇〇になっただろう？不思議だな。

〇〇なのかな。

やってみようかな。

予想通りでした。

そうだね、〇〇になっていたね。

本当ですね、不思議なことですね。

なるほど、いろいろ考えているんですね。

いいね。挑戦してみますか。

すごいね、予想したことがあっていましたね。

残念な例

「〇〇です。」
(まちがった答え)

ほかにありませんか。

この言葉を言う前に...

あ〜あ、言わなければよかった。

よい例

「〇〇です。」
(まちがった答え)

なるほど、そう考えたんですね。

意見を受け止めて言葉を返す

言ってみようか。

受け止めてもらえた

ただし、研究授業や授業参観など大勢の人が見ているときは、この手法は使わない。どちらかというと、個別指導向きである。

間違いを意図的に生かす

- ・どこで間違えたのでしょうか。
- ・なぜ、間違えたのでしょうか。
- ・どうすれば、間違えないようになるでしょうか。



思考の過程を
大切に扱う。
そして、正しい
内容を理解さ
せる。

先生にぼくの考えを
受け止めてもらえたよ。

自分の意見に自信がもてるよ。

みんなも受け止めて
くれたよ。よかった。

みんなに分
かってもらえた
よ。



手立て

短い言葉でたくさんほめる

伝えられるメッセージ

「あなたはできていますよ」
「あなたはそれでいいんですよ」

児童の姿

児童は「できる」「これでいいんだ」と実感できる

★ 短い言葉でたくさんほめる

怒るときこそ理性的に、ほめるときこそ感情的に！！

児童に、小さなことでもたくさんほめられた経験をもたせる。
しかし、児童、または、発達段階によって、過度にほめることは逆効果になることもあるので、実態を把握した上で言葉かけをする。

その児童にあったほめ方をします。

ある程度できていたらほめましょう。

その児童の発想があります。それが認められることによって、「もっとやりたい、知りたい」気持ちが生まれます。

顔の表情やうなずきを加えると、より効果的です。

先生にほめてもらった。うれしいな。

自分のやったことに自信がもてるよ。

これでいいんだ。

頑張って、よかった。

できるかもしれない。

手立て

小さな進歩、努力したこと、
途中の過程を認めてほめる

伝えられるメッセージ

「あなたにはできるようになりましたね」「あなたは頑張っていますよ」「あなたは努力していますよ」

児童の姿

児童は「できる」と
実感できる

★ 小さな進歩、努力したこと、途中の過程を認めてほめる

昨日より計算ができる
ようになりましたね。

言われたことを忘れ
ないでできましたね。

黙って話を聞
いていました。

友達と意見交流が
活発にできました。

早くできるよう
になりました。

今日も真剣に
問題に取り組
めました。



友達のよいところをたく
さん見つけていましたね。

友達に「わからない」「教えて」つ
て言ってがんばっていましたね。

ノートを見やすくまとめて
いてすばらしいね。○○さ
んのよさが出ていますね。

この前よりうま
くになりましたね。

時間通りに勉強の用
意ができましたね。

今日は忘れ物をし
ませんでしたね。

～さんの声がよ
く聞こえました。

自分の考えがノートに
書けるようになりました。

前に勉強したこ
とを使っていて、
いい考えです。

集中して練習問題に取り
組んでいましたね。

話を聞くときのルールが
しっかり守れていました。

自分の悪かったところ
を正直に言えたのは、
とてもいいことです。

ここまでできる
ようになりました。

時間通りに勉強の用
意ができましたね。

手がピンと挙がる
ようになりました。

じっくり観察し
ていますね。

落ち着いて発
表できました。

友達の考えをノートに
書き写すことができる
ようになりました。

集中して練習問題に取り
組んでいましたね。

話を聞くときのルールが
しっかり守れていました。



小さな成功体験を多くもたせる
「やった」「できた」をたくさん経験させる

結果でなく、
結果に至る
までの努力
したことをほ
めます。



その児童
が成功と思
えるような
基準でほめ
ます。

「できたこと」
と合わせて、
その人自身
をほめます。



「ほめる」と「認める」の微妙な違い

「ほめる」は、「とてもいい」「すばらしい」といった児童の言動を評
価して賞賛すること。事実の後に、教師からの思いが入る。

「認める」は、児童の言動だけを取り上げること。評価意識はほと
んどないが、「気に留めている」ことは伝わる。

ここまで頑張った。
次も頑張ってで
きるかも。

少しはできる
ようになった
かな。

やってみると、楽しい
ことがわかった。この
次もできるかも。



手立て

うまく期待する
励ます

伝えられるメッセージ

「あなたにはできますよ」「大丈夫ですよ」
「あなたのよいところがもっと伸びますよ」

児童の姿

児童は「できる」「大丈夫だ」
「もっと伸ばせる」と実感できる

★ うまく期待する・励ます

明日もばっちり取り
組めそうですね。いい作品に仕上
がりそうですね。この間もよい作
品ができました。
頑張って。今日やったことを生かして、明
日は活用問題をやってみます。
ちよつとむずかしいけど、みん
なで挑戦してみない？ここまで一生懸命
やってきたことが大
事なんです。仕上がりが楽
しみですね。きつとうまく
やれます。いい発表会に
なりそうですね。大丈夫だよ、上
手にできるよ。明日も期待し
ています。楽しみにし
ています。友達からいい意見
をもらえそうですね。練習の成果が発揮で
きると思いますね。惜しいね、もう少し
で合格できます。緊張してますね、
リラックスして。この間練習した
から、できますよ。落ち着いて、い
つものようにや
ればできます。『自分ではできるん
だ』と信じてやっ
てみましょう。これだけ練習し
てきたんだから、
大丈夫です。

- ・その児童にあった期待の仕方、励まし方をする。
- ・どの点を評価しているか、ということを理由を添えて伝える。
- ・本当に頑張ったところを変化をつけてほめる。

児童の得意と
することをほ
めます。長所の成長を期
待することが重
要です。潜在的な能
力を理由にし
て励まします。児童によっては、過度
の期待がプレッシャー
になることもあるので、
その児童の性格なども
把握して言葉かけをし
ていきます。自分の得意としてい
ることをほめてもらっ
た。これからも、自信
をもってできそうだよ。先生がぼくに期待
してくれている。
よし、がんばっ
てみよう。ぼくのいいところを言っ
てもらったよ。いいとこ
ろをもっと伸ばしたい。

手立て

ネームプレート・付箋紙・短冊
小黒板・ホワイトボード等の活用

伝えられるメッセージ

「あなたの意見がここにありますよ」
「あなたがここにいますよ」

児童の姿

児童は「ここに
いる」と実感できる



★ ネームプレートの活用

- ・児童の発言を取り上げる際、「これは、〇〇さんの意見」と言いながらネームプレートを貼る。黒板にその児童の意見を位置付けることが存在感につながる。
- ・児童一人一人の立場が明確になる。
- ・全員にネームプレートを貼らせる。

これは、
〇〇さんの
意見です。

〇〇さんの
意見に賛成
です。

自分の考えと近いと
ころにネームプレート
を貼ってください。

- ・名前の頭文字を書く。

板書では、頭
文字を書くな
どして存在感
を示します。

児童が発言
したことを板
書します。

上 中
△ ○
△ ○

中川さんの意
見は、○○、
上原さんの意
見は△△です。

★ 小黒板・ホワイトボードの活用

- 自分たちの字で書かれているものが掲示されると、うれしさも倍増する。



★ 付箋紙の活用

- ・児童に考えを書かせ、話し合いながら模造紙や画用紙に貼る。
- ・まとめたものを発表したり掲示したりする。

★ 短冊の活用

- ・児童に考えを書かせ、黒板に掲示する。
- ・黒板で意見をまとめるときに有効である。
- ・全員の考えや意見を把握することができる。

ぼくの書いた意
見が貼ってある。

黒板に短冊を貼
ることで、自分の
存在を確かめるこ
とができます。

意見が貼ってあるこ
とで、他の児童にとっ
ても「〇〇さんの意見
に賛成(反対)です」が
言いやすくなります。

付箋紙・短冊・小黒板
等は、自分の考えや意見を
書くことにもなるので、自己
存在感を与えるときにも、自
己決定するときの道具とし
ても有効です。

掲示してあること
で、児童同士が
お互いに存在感
を認め合うこと
につながります。

ここに
いるんだな。

友達
の存在
を認める
こと
が
できるよ。

ここに
いて、
いい
んだな。



手立て

声をかける・話を聞く
気持ちの受容

伝えられるメッセージ

「あなたのことを応援しているよ」「あなたが
分かるようになってほしいな」

児童の姿

児童は「やれるかも」「分かるかも」と思うようになる



比較的やさしい課題を与え、
勉強がうまくできたことほめる
シール、はなまる等

ごほうび目当てで、
何とか勉強するよ
うになる

勉強自体の楽しさに気付く
ほうびがなくてもやるようになる
「やればできるんだ」「やってみたらおもしろかった」

自ら学
びたい

意欲の
向上

★ 声をかける、話を聞く

- ・心配していることを伝える。
- ・どこまでの話がわかっていているか聞く。
- ・小さなことでもいいのでほめる。これを繰り返す。



ノートに書きましたか？

どこが分からないですか？

やることは分かりましたか？

ここまで分かっているのですね。いいよ、じゃあこれやってみる？

★ 気持ちの受容

どんな発言も受け止める。
無視しない→A1を参照
児童の心の中を理解しようとする。その児童がどうすれば授業に取り組めるのか、考える。



やりたくない。

そうなんだ、〇〇君はやりたくないのですね。



めんどくさい。

そっか、ずっとそうだと、心配だな。

残念な気持ちを持ちは伝えよう。

話をじっくり聞いた方がいいかも...

一緒に考えます。

授業以外でもコミュニケーションをとって、より良い関係づくりに努めましょう。

一人一人に応じた話題を心掛けてしよう。

授業終了後の児童の様子(友人関係)を観察し、声かけ等の対応をします。

ノートを少しでも写していたら、「がんばって書いているね」とほめます。

子どもの挫折した気持ちや劣等感を、自分のことのように感じ取れる能力を教師自身がもちましょう。



どの問題だったらできそう？

この問題ならできるかな。

OK！

できた！ やってみたら、おもしろかった。

頑張ったね。

やる気がでたぞ！

手立て

全員が応答できるような発問
「同じです」という答えへの対応

伝えられるメッセージ

「あなたはできました」
「あなたは分かったのですね」

児童の姿

児童は、「できた」、「分
かった」と実感できる



★ 全員が応答できるような発問

簡単な発問からだんだん難しい発問へ

導入

既習事項の確認、前時の復習

例：フラッシュカード

楽しそう。

今日の授業
は頑張れそう。

なんとか
やれそう。

児童の意
欲付けをは
かります。

答えが同じ
だったという
安心感をも
たします。

追究

・作業的な活動を取り入れる。

例：ペア学習、グループ学習による話し合い活動

ノートに書く、実験観察、白地図（都道府県名や特産物）

1cm³マス等の具体物を用いた活動

・体を動かす活動を取り入れる。

例：読むところを指で指しながら読む。

隣の人と丸読みする。立って音読する。

こまめに
評価して
いきます。

振り返り

・学習内容の確認ができる。

・思考の整理ができる。

・新しい知識を獲得したことを実感できる。

質問：子どもが本文を見ればわかるもの

発問：子どもの思考・認識過程を経るもの 文部科学省 CLALINET



★ 「同じです」という答えへの対応

何が同じなの？

どうして同じなの？

どこが同じなの？



同じです。

言ったこと
を問い直し
ていきます。



理由を聞くと、他の児童が「同じ考え
方をしていただんだ」「そういう考え
方もあったんだな」と気付きます。



全員が答えられるような
質問・発問は、
思考が行き詰まったとき
集中が途切れたとき
単元のまとめやテスト前の時間
でも効果的です。

小さな成功
体験を味
わうことが
できます。



勉強したこ
とが分かっ
たよ。自信
がもてるよ。

楽しかったな。
また、明日も
できるかな。



手立て

実態把握・見る観点
を絞る・回り方


伝えられるメッセージ

「あなたはそう考えているのですね」
「あなたの考えていることが分かりましたよ」

児童の姿

児童は、「これでいいんだ」
と実感できる

★ 児童の実態把握




いつも計算はざらいつ
て言っていたけど、図
形は好きなんだな。

説明的な文章は苦手
だったけど、文学的な
文章は得意だな。

一人一人の学
習の様子を把
握します。

★ 見る観点を絞る



「合同であ
る」「合同
でない」を
書いてい
るか。

どの方法で答え
を求めているか。

理由を書い
ているか。

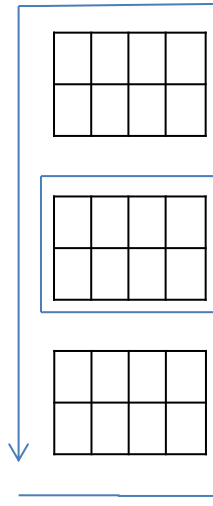
これで、3通りのやり方が
出てきたぞ。板書する人
と説明する人を決めよう。

★ 児童の学習状況の把握

- ・支援の仕方
丸付け、声かけ
- ・時間との戦い 2、3分で全員見る。
(TT:教室を2つに分けて支援)
児童の思考を把握する。
児童の表情を読み取る。
一人学びのノートをあらかじめ見ておいて、授業の中のどの部分
で、どの児童を生かせるか考えておく。声かけをし、指名する。
ヒントカードの用意等
- ・座席表の活用
児童の考えを座席表に書いておき、発表させる際、意図的指名
できるようにする。

★ 回り方

- ・全体をまんべんなく回る
方法
- ・気になる児童に焦点を
当てて回する方法



いい考えが書けましたね。
あとで、発表してくださいね。



自分が考え
たこととい
いんだ。

自分の考えていたこ
とが分かってもらえ
てよかった。これな
ら、次もできるかも。

手立て

児童の実態把握・個に応じた言葉かけ・場の設定、可能性を広げる・成果を発揮させる

伝えられるメッセージ

「あなたにはできましたよ」
「あなたのいいところがありました」

児童の姿

児童は「できた」と実感できる



★ 児童の実態把握

事前調査→指導に生かす
状況を固定化しない、決めつけない

★ 個に応じた言葉かけ

自信を失っている児童には、励まして自信をもたせよう。

課題が早く終わってしまいう児童には別のやり方を考えさせよう。

おいしい！

大丈夫ですよ。

もうちょっと。

それだけでは、足りないですね。

ほかのやり方も考えてみましょう。



★ 児童を生かす場の設定

- ・得意な児童に、モデルになってもらう。
- ・児童に考え方を説明してもらう。
- ・実物投影機を使って、発表者のノートを見せる。

〇〇さんにしてもらいます。よく見ていてください。



★ 可能性を広げる・成果を発揮させる

ちよつと元気のないAさんに、答えを発表させて自信をもたせよう。

今日はよく頑張っているAさんに発表させよう。

全体の前で発表してもうことを予告しておきましょう。

ここで、Bさんに答えさせたら、自信がつくかな。

いい考えだから、発表してね。

まだ、見つけられる？

よかったところに目を向け、記録をとりましょう。

意欲的だったのは？

発問に対し、どのように答えたのか？

さらによくなるには、ここを考えるとみたら？



先生はぼくのいいところを伸ばしてくれる。うれしいな。

やった、できた。

これでいいんだ



手立て

お互いの意見を交換し合う
振り返り

伝えられるメッセージ

「あなたは活躍できました」「あなたは役割を果たしました」「友達からほめられましたね」

児童の姿

児童は、「小集団の中で活躍できた」「集団の役に立った」「これでいいんだ」と実感できる

☆ お互いの意見を交換し合う

- ・話し合いの内容：視点の提示
- ・ペア、グループ学習の進め方
進め方を各学校で統一する。
- ・役割を決める。(有用感から存在感を与えられる)
輪番制(司会、記録、計時等)
司会が苦手な人には、友達と協力して進めさせたり、教師が支援したりする。
- ・自分の考えを発表する。
一人学習後、ペアやグループで互いの考えを発表し合う。
認め合う、よいところを見付ける。

☆ 振り返り

ペア・グループ学習を行って、交流ができたことや自分の考えが発表できたことをほめる。

友達からほめてもらえましたか。

友達から「いい考えだね」って言われましたか。

友達の考えも参考になりましたか。

自分の考えと友達の考えを比べて、考えを広げたり深めたりすることができました。

話をよく聞いて友達から学ぼうとしていましたね。

小集団と全体をうまく組み合わせる

隣の人と意見交換をしてください。

隣の人の考えをみんなに紹介してください。

隣の人は、しっかり考えられましたね。
発表者は、隣の人の考えをよく聞きましたね。

発表者、紹介された人の双方が活躍できます。

一斉指導の中では、自分の考えが言えなかったり活躍できなかったりする児童が、ペア・グループ学習で進んで行動したり考えを発表したりしているとあります。

「自分は他人から学ぶことがある」という気持ちのあるリーダーをつくりましょう。ことあるごとに、教師が話します。

〇〇ちゃんからほめてもらえてよかった。

〇〇ちゃんがほくのこと認めてくれたので、これでもいいんだと思った。

班の司会をして、緊張したな。だけど、時間内にうまく終わって、役割を果たせたから、よかったな。

手立て

授業展開・指名の順序

伝えられるメッセージ

「あなたはこう感じているんですね」
「あなたはそう考えるんですね」

児童の姿

児童は「自分で考えること
がいいんだ」と実感できる

★ 授業展開

導入

興味関心のもてる
発問

追究

ねらいに迫るため
に、多様な考えが
出される発問

本時の学習内容に関
する経験したこと、日
常生活での場面を聞
きましょう。

〇〇さんは、そういう経験
もしているんですね。おもし
ろいですね。△△さんは？

黒板に数通りのやり方を
書いてもらい、それについて
他の児童が説明をします。

☆さんの
考え

◇◇
◇◇

△さんの
考え

▽▽
▽▽

□さんの
考え

〇〇
〇〇

相手の考えを
認めたり尊重し
たりすることは、
その存在感を
認めることにつ
ながります。

振り返り

ノートに書いたことを全員が発表する。
同じ言葉でも、一人一人が発表する。

★ 指名の順序



ねらいからはずれて
いる答え

ゆさぶりを
かけま
す。

少数意見

理由も
言わせ
ます。

多数意見

ねらっている答え



児童の視点を変え
ることができる

この答えなのかな。

また違う答えが出
てきたけど、どれが
合っているんだろう。

どれが本当の答
えなのかな。



より多くの児童
に発表させるた
めに、このよう
な方法をとるこ
ともあります。

誤答に至った
過程を共感的
に理解し、受容
的態度で支え、
指導を行いま
しょう。

〇〇さんの発表
があつたから、
よく考えることが
できましたね。

この答え（誤
答）は多かつ
たですよ。



友達に認められ
て、「これでいい
んだ」と思えるよ
うになった。

いろんな考え
があるんだな。
人それぞれで
いいんだ。

手立て

「できた」を高める評価

伝えられるメッセージ

「あなたは分かったのですね」「あなたはできましたね」「あなたは楽しいと感じたのですね」

児童の姿

児童は、「分かった」「できた」「楽しい」を実感することができ

★「できた」を高める評価

絶対評価(到達度評価)・個人内評価

(自分の過去の成績や他教科の成績と比べて、現在の成績がどう位置付けられているかを示す評価)

伸びが分かる評価の視点

- ①スピードを比べる
- ②正確さを比べる
- ③学び方を比べる

提出物やノート、作品等の点検や評価

児童の思考過程を追っていく。
書かれた内容から児童の思いを理解していく。

①スピードを比べる

最初は計算に時間がかかりましたが、コツをつかんで早く計算できるようになりました。

②正確さを比べる

顕微鏡を正しく使えるようになりました。

拡大図や縮図で辺の長さや角度の誤差が少なくなってきました。



裁縫セットの準備や後片付けが早くできるようになりました。縫う時間も長くなるようになりました。

跳び箱を跳ぶとき、手の位置や足のふみきりの位置に気を付けて跳べるようになりました。



小数点の位置もミスしなくなりましたね。

一人残らず学ぶ権利を実現する授業の改革

どんな子どもでも学び続ける限り、決して崩れないということである。学び続ける限り、家族が崩れようと、友達が崩れようと、子どもは決して崩れない。逆に、学びに絶望した子ども、学びから逃走した子どもは、ほんのささいなことでも簡単に崩れてしまう。この事実は、学びが子どもの人権の中核であること、そして学びが子どもの希望の源泉であることを教えてくれる。

佐藤学『学校見聞録 学びの共同体の実践』小学館

③学び方を比べる

この学習をしたことで、むずかしい問題にも粘り強く取り組めるようになりましたね。

アイデアを生かして取り組みました。

友達の考えを聞いて、自分の考えをさらに広げたり深めたりすることができました。

★ 今後の見通しを実感させる

- ・授業の終了後、あるいは単元終了後、学習の振り返りをする。
- ・何気ない感想も授業で取り上げて、次時に生かす。
- ・丸、シール、コメント等、何らかの賞賛をし、児童に早く返す。
- ・児童自身が成功したときに自分をほめ、失敗したときに自分を励ます力を高めるようにする。

作文や作品、自己評価カードにコメントを入れ、励まします。



この学習をしたことは、○○のところに生かされます。

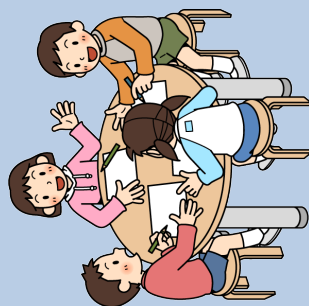
まとめ方が上手になりました。

グループの話し合いで、自分の考えを言ったら、「いい考えだね」と言ってもらえたのでよかった。

最後の問題では、きなかっただけ、○○を使って取り組むとよいことが分かった。



B 共感的人間関係を育成する



手立て

伝えられるメッセージ

児童の姿

ほめる

助ける

「あなたの力になりたいと思っています」
「あなたの周りの友達もやさしくしてくれます」

児童は教師や級友を「優しいな」と
感じるができる



★ ほめる (A4・A5を参照)

教師がどんな姿が望ましいのか取り上げてほめることで、全体で共有することができる。

約束がしっかり守れましたね。

前に勉強したことを覚えていましたね。

友達に優しく教えてくれましたね。

黙って行動することができました。

集中して取り組みましたね。

友達と協力していましたね。

こういうことをすると、先生がほめてくれるんだ。

ぼくも同じことをしてみよう。

まねしてみよう。

ぼくもほめられたいな。



どうしたの？

こっちもっているから、やってみて。

色を塗ってから、テープで貼り付けてみる？

あの子がじっとしたままだ、声かけをしよう。

見捨てないよ。

道具がないのかな、やる気がないのかな...



「なにがよかったのか」
「どこがよかったのか」
「なぜよかったのか」
を具体的に示す。

できない・つらい気持ちを受け止め、何からできるか一緒に考えます。その様子を周りの児童も見えて、温かい気持ちになります。



気持ちを応援する

合格おめでとう、たくさん練習したもんね。

いいですよ、仕上がりが楽しみです。早く見たい。

気持ちに寄り添いましう。

残念でした。でも、そのがんばりは無駄にはなっていないですよ。

逆上がりができて、本当にうれしかったですね。

楽しく遊べそうな作品ですね。

テストでミスして悔しかったんですね。

先生にほめられた。うれしいな。

みんなも優しい気持ちでぼくのことを見てくれる。

みんなも笑顔だ。うれしいな。

これからみんなと一緒にやってみよう。



手立て

好ましくない姿
は正す・励ます

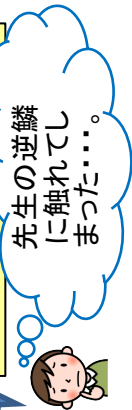


教師の最初の対応が大切

見逃す、注意しないことで、
「ルールは守らなくてよい」とい
う悪いメッセージを伝えてしまう。



毅然と注意する。
直した行為をほめる。



好ましくない姿の児童への対応

・からかいや冷やかし、馬鹿にしたような言動

・「えっ!」と否定的なことを言う。

・拍手したりうなずいたりする。(特に
仲のよい友達だけに、または逆の特
定の児童に対して)



今、〇〇さん
になんて
言ったの?

言われた本人は、言動だけでなく、
人格まで否定された気持ちになる。



×
そういうこと言っ
てるから、あなた
はだめなんです。

相手の立場を考える
よう促す。



頑張って発言したのに、からか
われたらどんな気持ちでしょう。



どの児童も望んでいること
できるようになりたい
分かるようになりたい

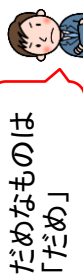
寄り添う、見捨てない
隠れた児童の心を理解する

児童の姿

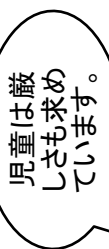
児童は「ルールを守って過ごすよ」「落ち
着いて過ごせるよ」と感じることができる

その場で注意をする

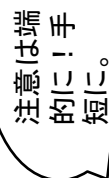
- ・「なぜ、いけないのか」を考えさせる。
- ・「その後、どうなるか」を考えさせる。



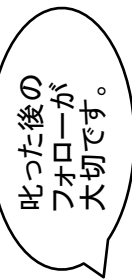
だめなものは
「だめ」



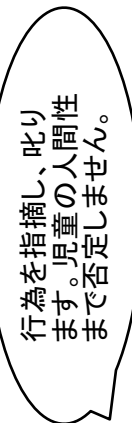
児童は厳
しさを求め
ています。



注意は端
的に！手
短かに。



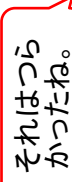
叱った後の
フォローが
大切です。



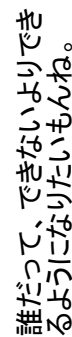
行為を指摘し、叱り
ます。児童の人間性
まで否定しません。



なぜ、その
行動に至っ
たのか、話
を聞きます。



それはつま
りなかったね。



誰だって、できないよりでき
るようになりたいもんね。



けんかの仕返しにそうい
う言葉が出たんだね。



厳しいのは、ぼ
くのことを思っ
てくれているか
らなんだ。

「だめなときは
だめ」って言っ
てもらった方
がいいな。

ぼくの気持ち
を分かってく
れたんだ。



手立て

児童の姿をふまえる
児童の状態を丁寧に見取る

伝えられるメッセージ

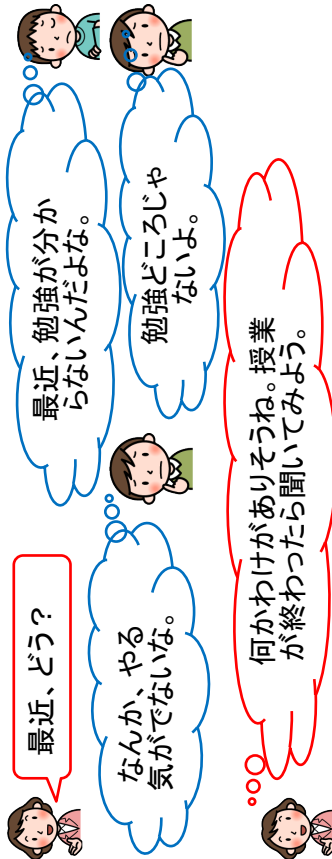
「あなたのことを大切に思っていますよ」「あなたは、かけがえのない大切な人ですよ」

児童の姿

児童は「大切にされている」と感じることができる

★ 児童の姿をふまえる

- ①一般的な発達理論を学んでいること
例・低学年は、親や教師に対して愛情や承認を強く求める。
・思春期を迎えた児童は、自我が芽生え大人からの干渉を嫌うようになる。
- ②学級の実態や児童の個性
例・Aさんは、文字の認識に時間がかかる。
・Bさんは、ずっと座っていられない。



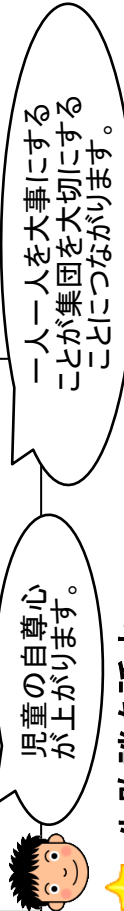
- ・勉強が分からない。
- ・目立ちたい、注目されたい。
- ・反抗することで存在感を示したい。
- ・友達との関係が悪くなった。
- ・友達にいやな思いをさせられている。

児童の内面に対する共感的理解が大切である。
背景にあるものを受け止め、冷静に素早く対応する。

共感的人間関係を育むことが基盤となって、人とかかわりの中で自己存在感が生まれ、自己決定が促される。

★ 児童の状態を丁寧に見取る

- ①身体からの見取り
目の動き、表情、手の動き、姿勢
- ②つまずきやつぶやきからの見取り
- ③児童のつながりからの見取り
課題、児童同士、児童と教師、一人一人の児童と集団
- この結果から、教師は次に何をすればよいか判断する。



★ 失敗談を話す

教師の失敗談を話す。
小さなことで失敗しても、すぐに最悪の結果になるわけではないことを教える。



失敗は、成功のもとです。

失敗したことを次に生かしましょう。

科学者は、実験で失敗を繰り返します。実験が成功することはまれなんです。だから、成功したときの喜びは大きいのです。

ぼくは、大切にされていると感じるよ。

ぼくもみんなのことを大切にしよう。



共感的人間関係 B4 児童への接し方

手立て

話し方・発話
身体コミュニケーション

伝えられるメッセージ

「あなたを大切に思っています」「いつも見守っていますよ」「いつでも相談に乗りますよ」

児童の姿

児童は「受け入れられている」と感じることができる

★話し方

やさしく、聞き取りやすい声で。

穏やかな表情で。

発達段階にあった言葉を使いましょう。

演劇、落語、お笑いなど参考になるかも。

話す速さは、1分間に300字程度。

間のとり方、音量、抑揚は、研究授業等を参考にして実践しましょう。

ほほえみながら。

語尾ははっきりと。

目を見て。

命令はしません。

繰り返し、念押しをしましょう。

★身体コミュニケーション

「ことばならざることはば」

- ・うなづく
- ・視線を合わせる
- ・微笑む、優しいまなざし
- ・前傾姿勢、手の動き、立ち位置
- ・正面を向く、隣り合って座る
- 腰をかがめて話を聞く
- ・服装



教師の豊かな表情は、学習意欲を引き出します。

大和真希子「教師の身体性に関する一考察」(2012)

子どもが信頼を寄せる先生
感情的に叱らない・やり方を教える・できたらほめる

★発話

- 「はい」(中断の呼びかけ)
例「はい、鉛筆置いて」
+ はっきりした切れ目をもたせられる
- 途中の学習者を置き去りにしてしまう



- 「さあ」(緩やかな呼びかけ)
「さあ、書くのを止めて」
+ 学習者の受ける圧迫感の軽減
- (明らかな一は無し)



文部科学省 CLARINET

見守っていますよ。

相談に乗ってくれそう。

先生は、秘密を守ってくれる。

先生は私が一生懸命やっていること、ちゃんと見てくれていたんだ。

話しやすいな。

助けられそう。

先生はいつもやさしく話しかけてくれる。

手立て

規律の遵守

伝えられるメッセージ

「落ち着いて学習できていますね」
「落ち着いた雰囲気ですね」

児童の姿

児童は落ち着いて学ぶことができる
児童は落ち着いた学級と感じることができる

★規律の遵守

- ・背筋を伸ばし、腰骨を立てて座る。
- ・膝を合わせる。
- ・上履きのかかとをふまないで歩く。
- ・丁寧な言葉「です」「ます」を使う。
- ・大きな声で、「はい」と返事をする。
- ・服装を整える。
- ・学習用具を忘れず用意する。
- ・席を離れない。
- ・私語をしない。
- ・ノートに書く。(自分の考えが分かるように順番に書く)
- ・話すときや尋ねるときは手を挙げる。
- ・話を最後までよく聞く。



例えば・・・

全員が達成できたら、カレンダーにシールを貼ります。

返りの会で、振り返りをします。

ルールが守れていたら、ほめましょう。

当たり前のことができていたらほめましょう。

継続して指導しましょう。

・筆箱の中味

(鉛筆5本、赤鉛筆、消しゴム、ミニ定規)
・ノート、プリント等を見せる時の約束

児童は、教師にノートの正面がくるようにして、「お願いします」と言って出し、受け取るとき「ありがとうございます」と言う。

学習用具や提出物を忘れた児童への対応
補充する手立て(連絡帳に赤で書く等)を講じる→繰り返し忘れることは、自分のためになっていないことを話す。
忘れ物を繰り返すときは、保護者の協力を得る。



・児童への指名の仕方

- 同じ児童ばかりが発言することのないようにする。
- 発言していない児童を優先的に指名することを伝えておく。
- 片付け、次の時間の準備(1年生は実態にに応じて)教科書、ノート、筆箱、下敷き、資料など
- ・教室移動の仕方
黙って廊下に並び、移動する。(帰りも同様)

児童のよくない言動を見逃してはなりません。

児童をよく見る態度のよいアンテナが必要です。

一人一人の児童が安心して過ごせるようにするには、規律がとても大切です。

なぜ、規律が必要なのか、話しましょう。

児童とともに学習規律やルールを確立していきましょう。

他の先生方と情報交換をして生徒指導に生かしましょう。

みんなで落ち着いて勉強できるよ。

みんながルールを守っていると、不満も出ないよ。

落ち着いたクラスになるよ。



手立て

重要な他者(担任)からの
受容・共感・自己一致

伝えられるメッセージ

「あなたの話を聞いています」「あなたのことを分かろうとします」

児童の姿

児童は「聴いてもらえた」「分かってもらえた」「受け入れられた」と実感できる



受容

・傾聴

ただただよい発言もみんな待たずく
相づち
「なるほど。」「ほうほう。」「うん、うん。」「たしかにそうですね。」



共感

・繰り返し

「～なんだね。」「あなたが～と考えた、感じたことは納得できる。」「Aさんの言いたいことは、○○なんだね。」
・言い直し、要約
言いたいことをまとめて言ってあげる
キーワードを取り上げる



自己一致

・思考と行動が一致している状態
「先生も一緒に考えます。」
児童から無理なことを言われたら、わけをたずねたり間違いに気付かせたりする。
児童からの要求に困ったら、「困った。」と言う。

発表する児童だけでなく、他の児童との信頼関係も築いていることになる

否定しないで、考え
たことや発表したこ
とを尊重します。

児童に、「頑張ろう」
という気持ちを与え
ることができます。

信頼関
係が築
けます。

「聴く」ことで、
教師が児童を
理解すること
ができます。

聞いてもら
えた。

頑張れるか
も…。

今の自分が受け入
れられたわ。みんな
分かってくれたのね。

傾聴の効果

- ・心が落ち着く。
- ・相手の人と近付いた感じがする。
- ・自分のことを分かってもらえた」ことで、うれしくなる。
- ・大切にされていると感じる。
- ・信頼感をもつ。
- ・自分が考えていることに気付く。整理される。
- ・自分の考えが明確になり、行動に結び付きやすくなる。
(自己決定へ)
- ・経験したことがらとそれに対する気持ちや問題点の整理ができる。

ほとくの考え
がみんな
に受け入
れられた。

大切にさ
れている
ことがわ
かるよ。

分かっ
てもら
えた。

みんな
に聞い
てもら
えた。

手立て

観察と声かけ
教師の自己開示

伝えられるメッセージ

「ありのままのあなたを受け入れます」

児童の姿

児童は今の自分を受け入れて
もらえたと実感できる

★観察と声かけ

常日頃からよく観ましょう。すると、どうしても欠点に目がいつても、しまいますが、小さな進歩でも、それを認めてほめます。
小さな進歩に気付くか、それを取り上げていけるかどうか
が大切です。

足痛めたと
ころはもう大
丈夫？

昨日休んだ
けど、今日
の調子はど
う？

今日も〇〇
の練習ある
の？

何かやる気
がでてきた。

教師の後ろ姿
を見て、児童
が育ちます。

そういえば、養護の
先生があんなこと
言っていたな。

かみ切ってさっぱりし
たね、かっこいいよ。

先生は、ぼくのと
見てくれている
んだな。

声をかけて
もらうとうれ
しいな。

何で勉強しないのか。つまずきの原因を見極め、改善しよう！

- ・勉強に対する姿勢（怠惰）→何ならできる？
- ・本人が学んできた基礎力の不足（知識の不足）→どこまで分かっている？
- ・用語の意味の理解（定義の理解）→〇〇のことをなんて言う？
- ・教えている内容が難しい（教材が適切か）→この問題（レベルを下げる）をしてみる？
- ・教師の説明が分かりにくい（指導法）→1番は〇〇するよ。

参考文献 國分康孝『子どもを育てるカウンセリング』 学事出版

★教師の自己開示

教師の体験談（特に、失敗談を話す）、考え、生き方などを示す。

先生もこんなこ
とあったよ。

「ごめんなさ
い」とあやま
る姿勢が共
感的人間関
係につながり
ます。

先生も失
敗すること
あるんだな。

先生もそう
いうこと
あったんだ。

失敗したあ
とが大事な
んだな。

先生も悪
いときは謝
るんだ。

ぼくのありの
ままを受け入
れてくれるん
だね。うれし
いな。

ぼくのこと、
ちゃんと見て
くれているん
だね。だから、
安心できるよ。

そういう
先生だと、
信頼でき
るよ。

（他学級担任、養護、専科、管理職、事務職員、用務員等）

共感的人間関係 B8 児童同士の聞き合い

手立て

聞き方の指導

伝えられるメッセージ

「発表者、頑張りましたね」
「聞き方が上手でしたね」

児童の姿

発表者は周りから認められる
周りの児童も温かい雰囲気になる



聞き方

- ・話し手の方を向く。
- ・話し手の目を見る。
- ・笑顔
- ・肯定的に聞く。
- ・うなずく、相づちを打つ
- ・最後まで黙って聞く
- ・音を立てない
- ・異なる意見も理解する。
- ・相手と自分の考えを比較する
- ・拍手をする
- ・（発達段階に応じて）
- ・メモを取る
- ・質問する気で聞く
- ・要点を押さえる
- ・相手の意をくむ
- ・相手の立場になる



聞く視点を示します。

どんな考えもよく聞きましょう。



発表者の方を向いて、うなずきながら聞きましょう。

質問する役割で聞いてください。

発表者のよいところを探してください。

友達の考えと自分の考えを比べてみましょう。



みんなが聞いてくれる安心感
や話してよかったという達成
感を味わわせることができる。

〇〇さんは、うなずきながら聞いていました。

〇〇さんは、拍手していました。

聞き方をほめます。

話を聞くようにします。

聞き方のよい児童をほめます。

児童が話そうという気持ちになります。

友達の考えたことをヒントに考えたり、友達の考えを読み取ったりする手立て

〇〇を考えました。

なるほど、いいところに気がしましたね。自分の考えが言えました。では、このAさんの続きが言える人？

〇〇さんと同じ考えだから、言えるかも。

ぼくの考えとちよつとちがうな。でも、言いたいことは分かかった。続きが言えるかも...

児童同士の考えをつなぐ

自分の発表を聞いてもらえたことで、みんなに受け入れられたと感じるよ。

みんなで聞いたり考えたりすることができて、よかったな。

ぼくの発表を聞いてもらった。今度はぼくが友達の発表を聞く番だ。

発表者

発表者

聞く人

手立て

児童同士の発言をつなぐ・児童の思考をつなぐ

伝えられるメッセージ

「みんなの発言をつなぎましたよ」
「みんなの考えをつなぎましたよ」

児童の姿

教師と児童、児童同士の人間関係をつなぐことができる

つなぐ

「どうしてそう考えたの？」
「分かりづらかったところはどこですか？」
「もう少し聞きたいところはありますか？」
「このことから、2つの関係がわかりましたか？」
「ほかにほどんなことがありますか？」
「〇〇が分かりましたね。」
「みなさんはどう思いましたか？」
「話をもとにもどしましょう。」
「〇〇さんの考えに賛成の人は？」
「〇〇さんの考えに近い人は？」
「〇〇さんの意見は、△△さんの意見と関連していますね。」



付けたす

「それって、こういうことなのかな？」
「もうちょっと分かりやすく言くと、こういうことですか？」
「同じところは、〇〇ですね。」
「〇〇のところがちがうんですね」
「例えると、こういうことかな？」
「今言ったことから、〇〇が分かりますね。」
「ほかのところからも言えますね。」
「こんなものもありますよ。」



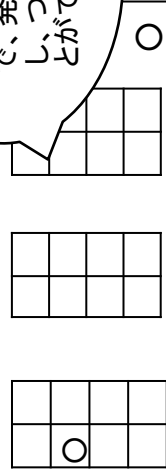
教師の「つなぐ」役割

教材と児童 児童と児童 児童の現在と未来
ある知識と別の知識
教室での学びと社会の出来事の学び
佐藤学『教師たちの挑戦』 小学館(2003)

★ 教師の立ち位置

- ① 近くで聞く。
- ② 聞いている児童を発言する児童と教師ではさむ。

教室の机配置図



あえて、間に児童をはさむことで、発言を共有し、つなげることが出来ます。

聞き返す

理解のための質問
「こういうことなのか、もう少し説明してください。」
「それはどういう意味ですか？」
「そのとき、どう感じたのですか？」
「もうちょっとくわしく言ってみてください。」
「具体的にいうとどういうことですか？」
「それはどのようにして起こったのでしょうか？」
問題の解決に向かうための質問
「どうなればいいと思いますか？」
「今まででうまくいったことは何ですか？」
「どんなことならできそうですか？」
「どうしてほしいですか？」
「どうしてそのようにやったのですか？」
「そんなときはどうやって乗り越えたのですか？」

ぼくの考えをつないでもらったよ。

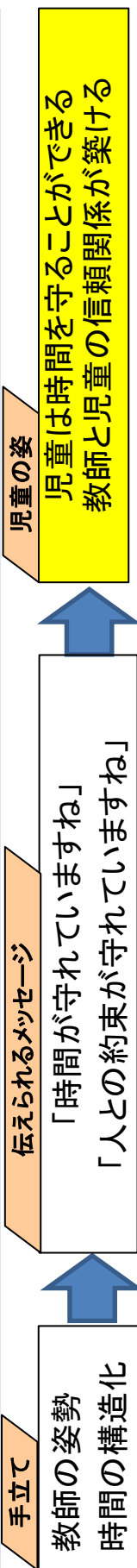
つないでくれる先生だと、信頼できるよ。

友達と分かり合うことができたよ。








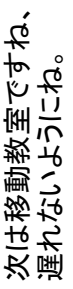
また、みんなでも勉強したいなと思うよ。



共感的人間関係 B10 授業の開始時刻と終了時刻を守る













★時間の構造化

開始の合図を厳守すること	あいさつで気持ちを切り替える 授業に集中できるようにする	終了の合図を厳守すること
教師の思いと児童の思いでは、大きなズレがある	<div>  <p>もうちょっとで終わるからがまんして...</p> </div> <div>  <p>早く校庭に行きたいな。コートとられちゃうし...</p> </div> <div>  <p>チャイム後の話は、ほとんど頭に入っていないません。よい効果は期待できません。</p> </div> <div>  <p>あっ、今日は委員会の仕事があるんだった。早くしてくれないかな。</p> </div>	<div>  <p>机の上がきれいになりましたね。</p> </div> <div>  <p>鉛筆、消しゴムもしまえましたね。</p> </div> <div>  <p>次にやることがかかりますね。</p> </div> <div>  <p>次は移動教室ですね、遅れないようにね。</p> </div>
片付け、次の準備をする		


★教師の姿勢

児童の様子、教室の雰囲気、観察
出欠の確認、児童の健康観察
(一人一人と目を合わせながら)
必要な声かけを行う


 <p>遅れたときは、きちんと謝ります。</p>	 <p>教師自らが時間を守ります。</p>
 <p>昨日休んだけど、今日の調子はどうですか。</p>	 <p>時間を守ること、人との約束も守れるようになります。</p>
 <p>勉強道具が出ますね。</p>	 <p>やる気が感じられます。</p>
 <p>こちらをよく見ていますね。</p>	 <p>おしゃべりしていませんね。</p>
 <p>姿勢よく待っていますね。</p>	 <p>ほめて、時間の感覚が身に付くようにします。</p>

時間の目安を示す タイマー、ベルの活用


2分でします。



時間が守れているよ。



先生が守っているから、ぼくも守るよ。



人との約束も守れるよ。

共感的人間関係 B11 ペア・グループ学習

手立て

活動の設定
ルールへの提示

伝えられるメッセージ

「友達の考えを聞いて、自分の考えに生かしましたね」
「友達のことを尊重しながら、自分の考えをもつことができましたね」
「友達から学ぶことができましたね」

児童の姿

児童は主体的に
意見交流ができる

★活動の設定

ペア

- ・1, 2年は、1時間の中で7, 8回使う(多ければ多いほどよい)。

活動例

教科書を交互に読む

指示されたところの確認

- ・手を挙げる人が少ないとき

- ・自分の考えが書けていない児童が多い場合

- ・1回の話し合う時間は2, 3分程度

- ・隣同士や二人組をつくり、互いの考えを伝え合い付け足し等をメモする。



グループ

- ・構成人数 3～4人

- ・3年生以上

- ・話し合いの目的、視点を明確にする。

- ・互いの違いと共通点を感じさせる。

- ・集団の一員としての役割をもたせる。

- ・グループ内で役割を輪番制にしていく(司会が苦手な人には、友達と協力して進めたり、教師が支援したりする)。

- ・1回の話し合う時間は5分程度(状態に合わせて柔軟に対応)。



★ルール

- ・机をぴたり付ける。

- ・壁をつくらなように筆箱や教科書を人と人の間に置かない。

- ・お互いの考えを発表し合い、よいところを認め合わせる。

- ・分かっている人と分らない人の立場は平等であることを言う。

- ・分かっている人は分らない人にさりげなく、根気強く説明させる。

- ・頼られたときは、しっかり対応してあげるよう話す。

- ・何も言わない人をつくらない(場面緘黙の児童には配慮を要する)。「分らない」「教えて」を言ってよいことを告げる。

- ・困ったときは「どうやったらいいの」と自分から言わせる。

- ・授業の流れを止めない。

- ・短時間で、座席の配置が換えられるようにする。



助けを求め
ることができ
るのは、相手
を信じている
からです。

助けを求めて
いいんだよ。

分かなかったら聞
いていいんだよ。

分らないとき、「分らない」と言える
学級の雰囲気をつくっていきましょう。

他の考えを
受け入れて
自分の考え
に生かすこ
とができま
す。

相手の立場や考え
を尊重しながら、自
分の考えや集団の
考えを発展させる
ことができます。

他とかか
わることの
よさを実感
させること
ができます。

友達と
話し合
うと楽
しいな。

自分たち
で進んで
意見交流
できたよ。



手立て

話し合いのスキルの習得
集団で学ぶよさを話す

伝えられるメッセージ

「みんなで活発に意見交流
をすることができましたね」

児童の姿

児童は集団で学ぶよさ・楽しさを
味わうことができる

★話し合いのスキル

意見の聞き方

- ・「わたしの考えと同じ」・「わたしの考えとちがうな」
- ・「考えは同じだけれど、理由がちがうな」



意見の言い方

- ・賛成「〇〇さんの考えに賛成です。理由は～からです。」
- ・付け加え「〇〇さんの考えにつけたしで、～だと思えます。」
- ・反対「〇〇さんの考えに反対です。理由は～からです。」
- ・まとめ「考えをまとめると～ということだと思います。」



★集団で学ぶよさを話す

今日はいろんな
求め方が出
てきましたね。

みんなで作るから
いろんな考えが出てく
るんですね。

〇〇さんはみん
なのことを考え
ているんですね。

今日は友達の作品を鑑賞
しました。工夫してあ
るところも人それぞれで、
おもしろかったですね。

今日は、〇〇さんがよく
取り組んでいたから、ほ
かの人もよい影響を受け
て頑張っていましたね。

教師の思
いを伝え
ます。

児童は教師の姿
勢をよく観察して
います。



共感的な気持ちや態度は、人とかかわりの中で、自分自身が実感し、何回も経験していくことで育つ。

話し合いの前に、
話し合うよさや
目的を伝えます。

相手を受け入れる
ことの大切さを、教
師の一言や行動か
ら教えます。



しっかり学び
合うことがで
きました。

いろんなや
り方がある
んですね。

自分の考えを
伝え合うことが
できましたね。

いろんな考
えが出てき
ましたね。

話し合い後に振り
返りをしたり、教
師からの励まし
の言葉をかけた
ります。

よい点を見付ける

・工夫点

・どこに力を入れたか

・取組の様子



周囲から受け入れられて
いる、認められている、よ
い評価をもらっている、と
いうことが大切である。

話し合いっ
て楽しいな。

話してよ
かったな。

また、話し
合いたいな。

話し合いでいろいろな考え
が出てきて、広がったよ。



手立て

寄り添う・つぶやく
つなげる・役立てる

伝えられるメッセージ

「あなたは、今こんなこと考えているんだね」
「あなたはこんなふうに考えているんだね」

児童の姿

児童は自分の考えを分かってもらえる・認めてもらえることができる

★寄り添う

- ・ほめる
自己存在感の『A5 認めてほめる』を参照
- ・指導・助言
・つまずきがある場合
既習内容のどこまで理解しているか聞く。
つまずきの想定・対処法を準備しておく。

よい考え
が言えま
したね。

どこまで
分かる？

ここはまちがいや
すいところですね。

問題にある単位を
よく見て、何か気付
いた？

★つぶやく

話合いの視点づくり

周りに聞こえるように言うことが、児童のヒントになったり、
考え方を広げたりすることにつながる。

うん、今〇〇さんがいいこと言いました。
みなさんにもう一度言ってくれますか？

黒板のまとめに書いた
ことがヒントになります。

そういうこと
か、書いて
みよう。

★つなげる

- ・児童の思考を深める
- ・教師は、ファシリテーター
- ・話合いが停滞している時
児童同士の助け合い・話し合いを促す。

児童同士で互い
のよさに気付く
ことができます。

〇〇さんと△△さ
んの言っているこ
とで共通点はどこ
かな？

〇〇さんの意見と
△△さんの意見
をうまく生かす方
法はないかな。

★役立てる

評価：児童の学習活動を多面的に評価できる。

改善：観察・指導から、児童の多様な発想・考えを見付けられることができる。

課題作業等の活動
場面では、製作過程
や練習状況を把握し
ます。

課題への反応や理
解の程度を把握し、
授業の組み立てに
役立てます。

自分の考
えを分かっ
てもらえた
よ。

自分の考
えを認め
てもらった
よ。

みんなに
受け入れ
られたよ。

手立て

伝えられるメッセージ

落ち着いた空間

「授業に集中して取り組めるね」
「落ち着いて学習できますね」

★落ち着いた空間

教室

- ・床にゴミが落ちていない。
- ・隣同士の机を付けて、整頓されている。
- ・ロッカーの上・中が整頓されている。
- ・掲示物が少ない。(特に前)
- ・掲示物を整然と貼る。
- ・黒板がきれい。
- ・危険なものが無い。
- ・採光や換気が適度である。
- ・みんなでするものもの置き場所が明確になっている。

季節感のある教室
ある教室
も心が和みます。



児童の姿

児童は落ち着いて、安心して
過ごすことができる

個人

- ・机の上が整っている。
- ・学習用具をそろえる。
- ・机の中が片付いている。
- ・筆箱の中味が整っている。
- ・余分なものはしまう。
- ・服装が整っている。

学級掲示
壁面の活用

作品等は、教室の横、後ろに掲示する。落書きや破損に目を光らせる。

机の上がきれいになって
いますね。



勉強道具がきちんと用意されていますね。

使うものだけ出します。



あまりいい状態ではないとき



みんなで机をそろえましょう。

そろえられたら



すっきりしました。そろっていると気持ちいいですね。

笑顔とこのような言葉
を付け足すことが
大切です。

黒板がきれいだと気持ちいいですね。



窓を開けてくれて、ありがとう。さわやかな風が入ってくるね。

教室が片付いていると、心が落ち着きますね。

外的・内的環境に配慮する

児童が意欲を高めにくい日

真夏の屋下がり、学校行事後、雨のため、外で体を動かして遊べない
工事でうるさい等

↓

ちよっとした体ほぐし

例:国語漢字 指で、頭で、体で空書き

先生の経験した話 など入れてみてはいかががでしょう。

教室がきれいだ
と落ち着くな。

勉強もはかど
りそう。

授業に集中して
取り組めるよ。



手立て

指示の徹底・安全に気を付けさせる声かけ学習用具・器具の使い方
で気を付けること

伝えられるメッセージ

「けがに気を付けて学習できました」
「道具を安全に使うことができました」

児童の姿

児童が落ち着いて、安心
して過ごることができる

★指示の徹底

毅然とした態度

指示をしっかりと聞かせる

全員の顔が教師
の方を向いてか
ら指示を出しま
す。

机、いすがないとこ
ろでは、体育座りを
させて、児童の集
中力を高めます。

★安全に気を付けさせる声かけ

自分、他の人の安全を守るため
周りの人に迷惑をかけない

ここから〇〇までの場所、構図を考えて
絵を描いてください。

プールのここに、排水口というのがあります。水が吸い込ま
れていきます、ふたが開くと、ものすごい勢いで吸い込まれ
てしまうので、絶対にふたを開けたり近寄ったりしないでくだ
さい。

自動車工場内では、危険なところもあります。係
員の人の話をよく聞いて行動しましょう。

刃先、針先、三角定規、
はさみ、鉛筆の先は下に
向けます。

道具を使うときは、集
中して取り組みましょ
う。

★学習用具、器具の使い方で気を付けること

カッター

刃は少しだけ出します。
(目盛り一つ分)

彫刻刀

手は刃よりも手前に置きます。

コンパス

下敷きを外して、足をもちます。
手だけをもちます。

針

授業の始めと終わりに必ず本
数を確認します。

電動糸のこ

刃の向きが正しいか、安全に止まって
いるか、点検してから使います。

薬品

直接手で触らないようにします。

アルコール
ランプ

教科書、ノートをしめます。髪の毛
や衣服にも気を付けましょう。

虫眼鏡

直接太陽を見ません。
窓側に置くのは止めましょう。

気を付けて
学習できたよ。

道具の使い方を
守って、安全に学
習できたよ。

手立て

板書のよさ・板書の構想・準備

伝えられるメッセージ

「やったことが分かりますね」
 「みんなが学習しました」
 「学習の練り上げが見られます」

児童の姿

学級全体で学習した足跡が分かる
 とともに学習した連帯感が生まれる

★板書のよさ

- ・課題を全員が確認できる。
- ・学習していることが見て分かる。
- ・児童の考えを整理し、思考を深めることができる。
- ・可視化することで、より記憶される。
- ・よい授業＝よい板書＝よいノートづくり
- ・全員が同じ速さで書けるように、教師の書く速さを調整する。

学習過程
の視覚化学習内容
の共有化学習効果
の高まり

★板書の構想

- 課題
 - ・簡潔に書く
 - ・四角で囲む
- 見通し(予想、仮説、方法)
 - ・多様な考え
- 実験・観察、検証(確かめる)
 - ・結果を分かりやすく(図・表・グラフ)
 - ・比較しやすいように整理
- まとめ
 - ・分かったことの確認
 - ・結論は色チョークで区別
 - ・次時への問題提示

板書は教師の
思いを表現する
手段です。最後に板書を
見ると、1時間
の授業を振り
返ることができ
ます。

★準備

- ・各種色チョーク
基本は白色、必要に応じて黄色
赤や青は、筆順等で効果的に使う
- ・定規(1m物差し、三角定規、分度器)
- ・ネームプレート
- ・マグネット、小黒板、指示棒
- ・きれいな黒板、溝

今の漢字
の書き順、
縦が先だったかな。あの色は、大切
なときに使うん
だったな。本時のねらいを
書く予想、見通し
をもたせましょう。書く速さや教
師の立ち位
置に気を付
けましょう。色チョークは
ルールを決
めて使いま
しょう。課題や大切
なところは枠
で囲みましょ
う。後ろまで見えにく
い位置があるの
で、全員が見える
ように書く位置に
配慮しましょう。丁寧な文字、
正しい筆順を
心掛けましょ
う。児童生徒の
発表を板書
に位置付け
ましょう。後ろへ下がっ
て、文字の大
きさを確認し
ましょう。やったこ
とが分
かったよ。みんなが
勉強するこ
とができ
たね。一緒に勉
強したこと
が分かった
ね。

手立て

発表・発言
音読

伝えられるメッセージ

「言いややすいな」「みんなの前でも平気で言えるよ」

児童の姿

児童が「何でも言いやす
い」と感じることができる

★ 発表・発言

- ・ほどよい聞こえ(声の大きさや質)
 - ・グループ、全体等状況に応じて
 - ・先に考えを述べる。次に、理由を述べる。
 - ・相手を見る。
 - ・間をあげる。
 - ・調子を変える(話の転換)。
 - ・聞き手の反応を見る。
 - ・つなげる言葉を言ってから、自分の考えを言う。賛成、付け加え、反対
- 「〇〇さんの考えに賛成です」「〇〇さんの考えに付け加えます」「〇〇さんの考えに反対です」「〇〇さんとはちがってです」

不適切な発言は注意する

〇〇さんとかよしだから同じ意見なんですよ。

ヒソ ヒソ

ヒソ ヒソ

そんなこと言えるかどうか、わからないだろ。

言いたいときは、手を挙げて発言するよ。

相手を受け入れる気持ちで聞こうよ。

今発表している人があるよ。

相手の気持ちを考えて発言しようよ。

先にもう一度話を聞いてみましょう。

何でも言っていればいいわけではありませんよ。

★ 音読

「問題文」「教科書」
「実験方法」「歌詞」等話し慣
れよう。言い慣
れよう。

普段から気軽に話せるようにしておけば、困ったことがあっても、誰かに助けを求めることができる。

声のエクササイズも取り入れましょう。

適切な言葉・気持ちが変わる言葉を教える

こんなときには〇〇
としましょう。〇〇さんのおかげ
でした。いつもあま
り発言しな
いけど、頑
張ったよみんな
で読むと
楽しいな。普段から声
に出してい
ると話しや
すいよ。

ひとりぼっちの児童をつくらない

手立て

相手のよいところをほめる・
努力したこと、前よりも改善
されているところをほめる


伝えられるメッセージ

「あの子のいいところを見つけたよ」
「自分のいいところを見つけてもらったよ」

児童の姿

児童は互いによりよいところを見
つけ、認め合うことで、より良
い関係を築くことができる

★ 相手のよいところをほめる




お互いによりよいところ
を認めています。

今日は鑑賞会をします。友達
の作品の工夫しているところを
見付けて、カードに書きましょう。

よいところを2
つ以上見付け
て書きましょう。

★ 努力したこと、前よりも改善されているところをほめる



自分を大切にす
ること、相手を大
切にすることと
いった態度を育て
ていきましょう。

級友から、認められた、
ほめられた、受け入れ
られたと実感できるよう
にすることが大切です。

前は、友達にミシン針をつけても
らっていたけど、何回もやるうちに、
自分でつけられるようになったね。

〇〇さんは、
納得するま
で問題に取
り組んでいま
した。

友達のよいところを見付け、
伝えられましたね。

★ 場の設定

・一斉で行う場合

今の意見はどうですか。

・ペア、グループで行う場合

隣同士で答えを確
かめてみましょう。

〇〇さんが、やり方
を教えてください。

△△さんの作品
で、〇〇の色の
組み合わせがい
いと思いました。

作文を読み合います。
よかったところを伝え
合しましょう。

ほめられてう
れしかった。

そういえば、〇〇
さんもあんなこと
してくれたな。

友達に頑
張ったことを
ほめてもらっ
てうれしかり
たよ。

友達がぼくの努
力していることを
よく見てくれてい
るんだなって思っ
たら、うれしくなっ
たよ。

手立て

自己評価・相互評価を参考にする、教師の思いを伝える

伝えられるメッセージ

「みんなが頑張りました」「友達のよいところが見つけられましたね」

児童の姿

児童は「認められた」と感じるができる

★ 自己評価、相互評価を参考にする

△△さんが、丁寧に色塗りしていました。

〇〇さんが、やり方を教えてくれたよ。

〇〇さんのことをよく見ていましたね。

ほめられてうれしかった。

そういえば、□□さんもあんなことしてくれたな。

普段から他愛もない話のできる関係づくりを築きましよう。それには、普段から話しかけることです。

自分を大切にすること、相手をも大切にすることといった態度を育てていきましょう。

相手の体験や感情は、自分の体験や感情を手がかりに理解します。

教師自身が授業評価を行い、次の指導に役立てましよう。

具体的なことを取り上げてほめる

難しい問題に最後まであきらめずに取り組みましたね。

今日は、活発に意見交流できました。

みんなが問題に真剣に取り組んだから、ちよつと早く終わりました。

友達のよいところをたくさん見つけられましたね。普段の生活でも、友達のよいところをどんどん見つけて伝えてください。

グループの人と協力して学習を進めることができました。

みんな、友達のことをよく見ていますね。すばらしいですよ。

★ 教師の思いを伝える

みんなが一生懸命取り組んでくれて、とてもうれしかったです。

一人一人が一生懸命取り組むことで、より良い集団になります。

みんなの頑張りを先生が認めてくれた。

また、みんなが頑張ろうという気持ちになるよ。

みんなが頑張っていると、ぼくも頑張れる。

手立て

指名の方法

発表したか否かチェックする

伝えられるメッセージ

「みんなに自分の言おうとしてい
ることが分かってもらえたよ」

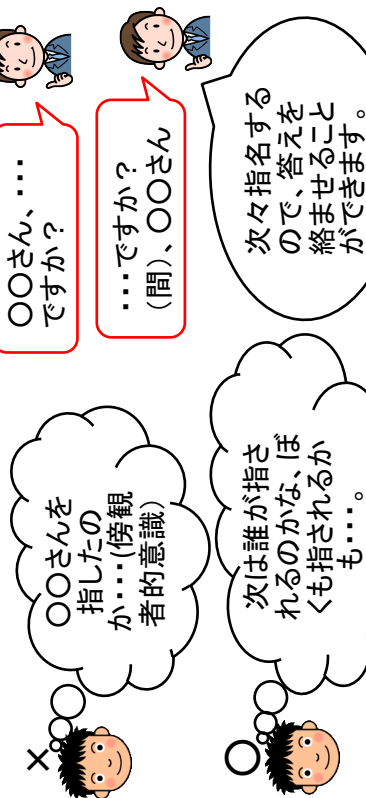
児童の姿

児童は周囲との関係性を大切にす
ることができ(社会性の向上)

★指名の方法

- ① 挙手させて指名する
指名した子どもの答えを全員に返す
- ② 順番指名・・・縦列、横列等
全員を指名する
- ③ 意図的指名・・・ノートの記述、表情、理解度をもとにする
- ④ 立場指名・・・発言に対して賛成か反対か、立場を明確
にする
- ⑤ 自由発言
- ⑥ 全体に考えさせた後、指名して答えさせる

いろんな方
法を組み合
わせてみま
しょう。



誰がいつ指名されるのか
分からないので、児童が
真剣に考えます。

★発表したか否かチェックする

座席表の用意

- ・意図的に取り組んでいたのは誰か。
- ・発問に対して、誰がどのように取り組んでいたか。
- ・まちがえたのは誰か、どこでつまづいたのか。→支援
- ・作業になかなか取り組みなかったのは、誰か。→支援

自分の言おうとして
いることや自分の気
持ちが周囲に分かっ
てもらえるという体
験が大切です。

どうしても思い
出せない児童が
いるな。

目立つ児童はたく
さん書けるけど…。

沈黙している児童は、
考えさせている
助言を待っている
意図的に話さない
等考えられます
今の沈黙が何にあた
るのか読み取り、対応
しましょう。

何回かで座席表を
埋めてみましょう。
すると、表に埋ま
らない児童を意識
して観ようとするよ
うになります。

自分の考えを言い
たかったんだ。先
生に指されてうれ
しかった。

自分の考えがみ
んなに分かって
もらえて、うれし
かった。

手立て

ほどよいテンポ
じっくり時間をとる

伝えられるメッセージ

「あなたの様子をよく見ていますよ」
「みんなと一緒に進めていきますよ」

児童の姿

児童は教師に寄り添っても
えたと感じることができる

★ ほどよいテンポ

一問一答式で答えられるとき
既習事項の確認をするとき

先生の
返し方も
テンポよ
く！

無駄を省くには、教
材研究と児童の実態
把握が必要です。

答えが簡単に出て
くるところは、短時
間で済ませます。

★ じっくり時間をとる

活用問題で、
夢中になって
問題にとりくん
でいるよ。

思ったよりも、
はかどっていない
場合、時間を
延長します。

〇分ならない・終わらない児童に対して、

何が分からないかが、
分かりましたか。

他の人に助けを求め
にいきましょう。

この時間で終わら
なかつたら、いつ
やるか聞きましょう。

振り返りは全員に発表
してもらってから、自分の
言葉でまとめてください。

段取り力（見通
しをもち、計画
的に行う力）を
付けましょう。

児童がもう分
かっているときは、
先に進めます。

児童の作業の
進み具合を見ま
す。

ノートに書かせるとき、児
童の書くペースに合わせ
ながら板書します。発達
段階をふまえましょう。

説明を簡単に、
短時間でします。

発表などは、練
習を十分行っ
てから本番を
行います。

教師が自己満
足に陥らないよ
うに気を付け、
授業を進めます。

時間をとって
自分の考えを
書かせます。

みんなと
一緒に
勉強して
いるな。

先生は僕た
ちのペース
を考えてくれ
ているんだ
な。

先生は僕た
ちのことよく
分かってくれ
ているんだな。

C 自己決定の場を与える



手立て

単元を見通した
本時の授業構想

伝えられるメッセージ

「あなたは疑問をもつことができましたね」
「あなたは『やってみよう』と思ったのですね。」

児童の姿

児童は興味関心をもち主体的に追究することができ

★単元を見通した本時の授業構想

導入

関心・意欲を高めるもの

- ・身近なことがらや日常生活と結び付けられるようなもの
- ・世間で話題になっていること
- ・新聞、インターネット
- ・視覚や聴覚に訴えるようなもの
- ・具体物や実物 写真、絵、
- ・ペープサート、調査統計表の活用など
- ・テレビ、ビデオ、パソコン
- ・既習の復習で、より多くの児童が応答できるようなもの
- ・フラッシュカード

最終ゴールの作品を示しましょう。

視覚からの情報は大きいです。



追究

理解を助けるもの

- ・具体的に作業や操作ができるもの
- ・付箋紙、小黒板、ホワイトボードの活用、ワークシート
- ・ブロック、ます、星座早見盤、顕微鏡など
- ・見て理解できるもの：ICTの活用(日常で体験できないことを動画や画像で見る)など

学習の成果を確かめるもの

例：児童のよい考え(ノートやブロック操作)を
投影機で提示する、児童の実演



振り返り

取組カード、振り返りカード等の活用
毎時間、単元終了後の学習を通して成果を確かめる
教師による評価、自己評価、相互評価

資料の活用の視点

- ・タイトル
- ・縦軸や横軸の単位や数字
- ・絵や写真から読み取れる日時や場所
- ・地図に示された場所、地図記号
- ・地域の特徴
- ・変化しているところ
- ・全体的な特徴
- ・共通点
- ・原因や結果
- ・不思議に思うこと
- ・読み取ったことについての自分なりの考え

遠洋漁業の漁獲量が
る年から減少しています。
それは、何年でしょうか。

なぜ、減少し
たのでしょうか。



ねらいを達成させるために資料や教材そのものの吟味をする。
提示のしかたやタイミングも大切。

どうしてな
んだらう。

ふしぎだ
な。

これは
何だろう。

見たいな。

知りたいな。

やってみ
たいな。



手立て

授業展開
よい発問

伝えられるメッセージ

「あなたは何を考えるか分かりましたね」
「あなたはやってみてみたいと思ったのですね」

児童の姿

児童は決めて行動することができる



★ 授業展開

導入

既習事項、経験を想起させる・一斉に返答を求める



〇〇について、不思議だな、どうしてだろうと思うことはありますか。

〇〇について経験したり、考えたりしたことはありますか。

この題名からどんなことを考えますか。

これは、何を写している写真でしょうか。

この絵から気付いたことはなんでしょうか。

展開時

思考過程を大切にすることが出来るイメージを広げる
矛盾・葛藤を生む
比較させる

〇〇になったつもりで△△してみよう。どうですか。

どうして〇〇になるのでしょうか。

もしこれがなければ、どうなりますか。

〇〇と△△を関係付けると、どんなことが新しく考えられますか。



終末時

学習を振り返る・思考過程を振り返る

〇〇についてどんなことが分かりましたか。

今日勉強したことは、生活の中のどんな場面で生かせようですか。



★ よい発問

発問の種類

活動型
確認型
思考型

～について探ろう。

どんな特色があるだろう。

なぜだろう。

1 簡潔

・全員の児童が何を考えればよいか分かる

2 広がり、深まり、方向付け

・想像、対比、批判を促す

・新しい考えを引き出す

3 具体的かつ明確

・絵、写真、図表を使う

集中をつくり出す発問には、確認、選択、だれでも応答できる発問等があります。



時には対立意見を生むような発問もしてみよう。

メリット

・「AかBか」「賛成か反対か」で、話し合いがより焦点化され深まる。
・自分の考えに説得力をもたせるために、証拠となる資料や相手に対して反論する場合の資料を見付けて、より主体的な学習を展開することができる。

デメリット

・学習での意見の対立なので、授業後の人間関係まで悪化することのないよう、十分な配慮が必要である。
・教師の話がよく聞けない学級の場合は、学級づくりから始める。

自分のすることが分かったよ。

考えることが分かったよ。

やってみよう。



手立て

思考・作業の場面で
具体的な視点を示す

伝えられるメッセージ

「あなたは何を考えればいいのか分かったのですね」
「あなたは何をすればいいのか分かったのですね」

児童の姿

児童は何をどう考えたらいいか
何どうすればいいかが分かる



☆思考・作業の場面で具体的な視点を示す

「〇〇について賛成ですか、反対ですか」「賛成反対の理由は何ですか」「〇〇と比べるとどんな違いがありますか」
「〇〇からどんなことが分かりますか」

各教科の具体的な視点の例

国語

同じ部分を選んだ人同士で、なぜその部分の気持ちの変化が心に残ったのか理由について交流しましょう。

なぜ、その場面を推薦するのか、根拠を入れて書きましょう。



生活

植えたときのミニトマトの苗と変わったところを見付けます。色は、大きさは、触った感じは、においはどうだったか、絵や文でかきましょう。



落ち葉や木の葉を使ってみんなが楽しめる秋の遊びを考えましょう。去年はこういう遊びがあったかな。

社会

瀬戸内式、日本海式の年間降水量のグラフを比較すると違いがあるのはなぜでしょう。

1965年から2005年にかけて、3つの年齢構成の割合はどのように変化していますか。



音楽

『小犬のワルツ』の曲を聴いて、小犬がどんなふうにいるか想像したことを書きましょう。



リズムや速度はどうか、同じ旋律が出てくるか、よく聴いて書きましょう。

算数

ミルクティーを1200mL作るのに、牛乳と紅茶を3:5の割合で混ぜるということを、数直線で書き表してみましょう。

歩幅と言ったらどこからどこまでの長さのことを言うのでしょうか。3つの中から選んでください。



図画工作

(材料そのものの形を見て)何に見えてくるかな。

作品の鑑賞会で、形や色、材料の特徴、表し方で工夫しているところをお互いに伝え合ひましょう。



理科

マヨネーズチューブの口に風船をつけます。チューブを押すと、風船はどうなりますか。(ふくらむ)ガラス瓶の口に風船をつけると、風船はどうなりますか。(たぶん「ふくらまない」と答えるだろう)では、ガラス瓶を手で暖めると風船はどうなりますか。不思議ですね、なぜでしょう。



振り子が1往復する時間は、何によって変わるのでしょうか。

先行経験との矛盾に
出会わせます。それ
には、既習事項を踏
まえます。

体育

〇〇さん、クロールが上手ですね。やってみますので、みんなは手の挙がり方、息継ぎのときの顔の向き、足の動きを見て気付いたことを言ってください。

開脚後転のしかたで上手な人に実演してもらいます。手をつく位置はどこですか？回るスピードはどのくらいですか。



自己決定C4

指示・説明

手立て

分かりやすい
指示・説明

伝えられるメッセージ

「あなたはこうすればいいか分かったのですね」
「あなたはこうすることが分かったのですね」

児童の姿

児童は見通しをもって、主体的
に行動することができる

★分かりやすい指示・説明

全員を集中させてから指示・説明する「発問」「指示」「説明」を組み合わせる

指示

活動を促す

説明

理解を助ける

助言

つまづきを解

消する

指示「この写真を見よう」

発問「何をしているところでしょう」

助言「〇〇をよく見てみましょう」

発問「どんな表情をしているかな」

切り返し「なぜそうしているのでしょうか」

評価「なるほど、いいところに気が付いたね」

説明「実はこれは・・・なのです」

指示「では、〇〇について調べよう」

作業に取り組ませる際の指示

より具体的な視点を与える
対抗意識をもたせる

今までで一番多かった
のが5つ、これを超える
のが出てくるかな。

作業の時間は
〇分です。

〇分まで
です。

時間はみんな
の様子を見て、
声をかけます。

じっくり考えさせたいとき、児
童のテンポに合わせて授業
を進めることもあります。それ
には、授業の時間配分も念
頭に置きながら指導します。

机間支援しながら、児童の
学習状況を把握しましょう。

・1回に一つの指示

・短い指示

・注意を向けさせる

(先生におへそを向けて)

・指示の始め、終わりを明確にする

・数を示す

例：三つ話します

・ルールは事前に提示する

★集団として動かす指示

①最後に何をするかまで言う

〇〇をして、△△をし
て、□□を終えた人
は、プリントをします。

②一つのことだけ指示する

× ...をしながら、...
します。

○ ...をします。

今日は、...の勉強です。
実験をして、結果を班ごと
に発表してもらいます。

①「何を」「どうするか」
が全員に伝わって
いる。

②「～する」などの作
業がはつきり分かる

③作業が終わったら、
どうするか指示を出
している。

言葉だけの説明でなく、
モデルを示したり、実
際にやってみせたりす
ることが大切です。

『AをさせたいならBと言え』これがしつつけの言葉を言うときの原則で
ある。なぜなら、Aせよといった瞬間に子どもは考えをすることをやめてし
まうからである。

岩下修 「『指示』の明確化で授業はよくなる」明治図書(1986)

どうすれば
いいか分
かったよ。

すること
が分かっ
たよ。

自分で
やって
みるよ。

手立て

問題の把握・ノートに
自分の考えをまとめる

伝えられるメッセージ

「あなたは自分でやってみましたね」
「あなたはヒントから考えられましたね」

児童の姿

児童は自分で考え、表
現することができる

★問題の把握

児童から関連の
ありそうな自分
の生活体験、思
いついたことを
発表させる



予想(よそう)は反対から読め
ば、「ウンヨ」だからまちがって
もいいよ。理由や根拠となっ
ている内容を入れながら、で
きるだけ多くの考えを出そう。

★ノートに自分の考えをまとめる

「どう考えたか」「なぜ、そう考えたのか」

- ・自分が伝えたいことの中心となる文を箇条書きにする。
 - ・必要なことを落とさない。
 - ・伝えたいことを強調する。
 - ・結論、理由の順で述べる。
- 「わたしは、〇〇に賛成である。理由は、～だからである。
これまでに、〇〇のような経験がありました。」

分からない児童

教師が回りな
がら、机間支
援します。

解き方のヒン
トを与えます。

ある場所に児
童を集めて支
援を行います。

他の児
童に聞く
よう促し
ます。

児童が「何が分か
らないかが分かるこ
と」によって、やる気
が生み出されます。



①まねる、気軽に聞く。

②「自分ができることを自分でする」という経験を積み重ねる。

③自分のことは自分で決定し、自分でやっていきたいと思うよう
になる。

自己選択のすすめ

・いくつかの選択肢の中から選ぶ。



この3つの中で、ど
れが自分の考えに
近い？

1日1ページの自主学
習を、今日は何の勉
強をするか？



・「自己選択や自己決定したとき、そ
の結果がどうであれ、責任は自分に
あるというのが自己責任である」



児童の決定した
ことがうまく運ぶ
よう支援します。

児童ゆえの配慮

- ・児童が自己選択できていないければ、アドバイスを
 - ・計画を立てさせる
 - ・一緒に考える
 - ・応援する
- どれが自分の考えに近い？
- 一緒に考えましょう。



自分で考
えたよ。

自分の考えが書
けたよ。

自分で決め
られたよ。

自分でやっていき
たいと思うよ。



手立て

学習内容の習得や定着の程度、興味・関心に応じながらの支援

伝えられるメッセージ

「あなたは自分の考えがもてましたね」
「あなたは自分で考えられましたね」

児童の姿


児童が自分で決めて解決することができる

★生徒理解と実態把握


- 一人一人の児童の考えを把握する
(観察、ノート、発表)
- レディネステスト等の実施

個別支援


自分の考えがはきりしない児童に対して
まず、児童に聞く。




これでいいのかな？




何に悩んでいるの？



選択肢を与える。



Aなのかな、Bなのかな？



Aかな。

モデルを示して言い方を教える。

次からはこう言えいいんだよ。


他の児童に考えさせる。

誰か、〇〇さんが困っているところはどうか分かる人はいるかな？

少しでも自分の言葉で言えるようになったら、しっかりと共感して、「言ってもいいんだ」と印象づける。



そうだね、そこがむずかしいね。



言えるようになったね。

・上位の児童もこの1時間がためになったという時間にする。

- ・集団への対応と個への対応のバランス
- ・机間指導のとき

特定の児童にばかり支援に行かない。
（「いつも自分のところばかり・・・」と劣等感を抱かせてしまう）自分から助けを求めさせる。
できている児童にも声をかける。



まず、自分で考えられるように言う。
分らない児童は、助けを求めてよい。
児童同士のかかわり合いを中心にする。
教師は、「聴く・つなぐ・もどす」を常に意識する。

児童に心の準備をさせる

この考えは、いいから、発表してください。

今は、この時間に勉強したことをまとめる時間です。

教師がこ
だわりをも
ちましよう。

しかし、いくら熱心に指導してもどうしても意欲の出ない児童がいま
す。少しでもよいところを認めてい
きましよう。教師が完璧を目指さな
いことです。

児童の背中を
押してあげる
存在でありたい
ものです。

この方法でやってみようと思うよ。

「分らない」って言えたよ。

次からそうにやればいいんだ。

自分の考えがもてたよ。

手立て

見通しをもたせる・学習課題・学習方法・学習形態の選択・学習進度による教材の用意

伝えられるメッセージ

「あなたは自分で選べました」「あなたはなににするか決められました」

児童の姿

児童は自分で選ぶことができる
児童はなににするか決めることができる

★見通しをもたせる

単元の最終ゴールを意識して、各時間の計画を立てる

例：国語「生き物のつながりについて考える意見交流会を開こう」教材文「生き物はつながりの中に」（光村図書）

最終ゴールのイメージをもちましよう。



★学習課題の選択

例：社会

〇〇市の人々は、その土地で生活していくために、どのような工夫をしているのだろうか。



高地、低地、雪国、温かい島等の特色ある地形や気候条件をもつ地域を選択し、調べ学習を行う

★学習方法の選択

どんな方法で課題解決に取り組むかを、児童自身に選択させる

算数：作図や計測、操作学習

課題解決の見通しをもたせ、表現の仕方をいくつか提示し、その中から選択させる

社会：人物調べ 資料集、パソコン、図書室の本等

理科：いくつかの実験方法の中から考えさせ、選択させる、観察の方法



★学習形態の選択

例：生活科 秋祭り お店屋さんを決める

△△屋さんになりたい人でグループをつくる

例：国語 物語文で意見交流をする

一番好きな場面が同じ人同士で意見交流をする。
交流することで、共通点や相違点に気付いたり(中学年)、
自分の考えを広げたり深めたりする(高学年)

★学習進度による教材の用意

遅れがちな児童→教師、課題解決できた児童が支援する
課題が早く終わってしまった児童→遅れがちな児童の支援
新たな課題



人間は弱いので何をするにも迷うことの連続であるが、挑戦の気持ちをもってした決断を評価してくれる人がいれば、迷いを断ち切ることができる。『先生！』池上彰 岩波新書

どんな方法で解決していくか、自分で選べたよ。

やることが分かったよ。

自分で何にするか決めたよ。

自分で決めて勉強することができたよ。



手立て

ねらいの明確化・学習場面の選択・技法の選択

伝えられるメッセージ

「あなたは自分の考えをはっきりさせることができます」

児童の姿

児童は自分の思いや考えを決めて表現する力を身に付けることができる

★ねらいの明確化

ねらいの例

- ・友達の考えを聞くことで、自分の考えと比較したり、自分の考えを確かにして深めたり、新しい考えに気づき広げたりすることができる。



★効果が上がる学習場面の選択

学習場面例

- ・多様な考えを出させたいとき
- ・対話することで、自分とはちがったものの見方があることに気付いたり、新たに自分の考えをまとめたりすることができる。
- ・自分では解決できない問題も、仲間との討論で、割と早く解決できることがある。
- ・グループ学習に参加するためには、自分である程度準備が必要なので、必然的に一人で考えるようになる。

★技法の選択

学習形態

- ・ペア グループ 少人数 TT
- ・同質 異質



技法

- ・ブレインライティング: 発想や気付きを広げていく。
 - ・付箋紙(KJ法): 気付きや疑問、情報を類型化していく。
 - ・座標軸シート: 視点にそって情報を整理していく。
 - ・ビフォー・アフター: 情報を収集する前後の視点で分析していく。
 - ・ブレーンストーミング: いろんな考えを出し合う、否定はしない。
 - ・バズ学習: 少人数のグループに分けて自由活発に発言させ、発言力を養う。
 - ・討議法: 各メンバーの持つ知識・経験・長所・持ち味など互いに刺激しあう。
 - ・ジグソー法: ある課題についてグループに分かれて読み、互いに説明し合い課題全体の理解をしたり、課題に関連する問題を解いたりする活動を通して学ぶ。
- (はばたく群馬の指導プラン 実践の手引き 総合的な学習H26他)

自分の考えを友達に伝えることができたよ。

友達に説明することでも自分の考えがはっきりしたよ。

友達と話し合うことで、考えが深まったよ。



手立て

指名の種類・発表スタイル・意思表示をさせる・発表できない児童への対処法

伝えられるメッセージ

「あなたは自分の考えが言えましたね」

児童の姿

児童は「言えた」を実感できる
児童は自分の考えをより明確にできる

発表に対する抵抗感を少なくさせるために、隣同士→グループ→全体と段階をふんだ方法で意見交換をする

★ 指名の種類

挙手指名

機械的指名

意図的指名

机間指導をして、誰がどのような考えをもっているか把握したり、どの意見とどの意見を対立させるか考える。

この列の人から発表してください。

★ 発表スタイル

・自分の考えを発表する。

結論、理由の順で言う。

・友達の考えと自分の考えを比較して発表する。

賛成の意見がでた場合

自分の考えに自信がもてる。

反対の意見がでた場合

反論を加えたり、違う観点から見直したりすることができる。

わたしは、理
由は、○○だ
からです。

★ 意思表示をさせる

どれが正しい
と思いますか。

この4つの
うちのどれを選
びますか。

ネームカードを活
用すれば、だれが
どんな考えなのか
はつきり分かるな。

賛成ですか、反対ですか。

付箋紙、短
冊等を使っ
て自分の
意見を書
かせるのも
いいですね。

★ 発表できない児童への対処法

・自分の考えに自信がなくて発表できないとき

自分の考えを言ってみ
ることも大切だよ。

チャレンジしようと思
っている人？

どの考えも大切です。いろいろな考えがあるからみんなで学べるんですよ。ぜひ、自分の考えを言ってみてください。

まちがってもいいよ、やってみようと思う人？



じゃあ、言ってみようかな

・どのように発表したらいよいか分からないとき

わけを話してみて。

なぜ、そう考えたの？

わけがあったら、
言えるかも。

発言内容の評価とい
うよりも、発言できた
ことを評価しましょう。

うまくいってもいなくても児童
が自分で決めて一生懸命やって
いたら、おおいにほめましょう。

自分の考
えがはっ
きりしたよ。

自分の考
えが言え
たよ。

頑張っ
て発表
したよ。

手立て

授業構成(場面に応じた機器の活用)・G-takの活用

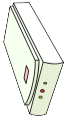


伝えられるメッセージ

「あなたはおもしろいと思ったのですね」
「あなたはやってみたいと思ったのですね」

児童の姿

児童は、主体的に追究することができる

★授業構成

導入	興味関心をひくもの フラッシュカード デジタル教材 
追究	・変化を見せるとき IWB(電子黒板) 児童の考えが書かれているノート、ブロック操作(実物投影機) ・調べ学習をするとき インターネット(パソコン) 
まとめ	インターネット(ビデオ、ICレコーダー、デジタルカメラ等) 授業で学んだことのおさらい 知識の確認 例:図形の等積変形 技能の定着 例:合わせて10、かけ算九九 

授業の

「どこで」「どのように」「何のために」に活用していくのが、授業の構成をしつかりたてることが大切!



参考となる情報サイト
・NHK「デジタル教材/学校放送番組ホームページ」
www.nhk.or.jp/school/
・NHK for school ふしぎ情報局
www.nhk.or.jp/rika/
他

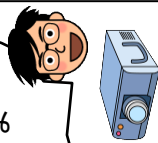
★G-takの活用

国語	・ガンの群れの様子 ・漢字の筆順、習字 ・わらぐつ 社会 ・農業や水産業 ・工業生産 算数 ・面積の求め方の工夫 ・正〇角形 理科 ・植物の生長と発芽	・魚や人の誕生 ・台風と天気の変化 ・流れる水のはたらき 音楽 ・リコーダー 図工 ・造形活動(やきもの) 家庭 ・ミシン ・ボタン付け ・玉結びの作り方 ・ごはんのみそ汁	体育 ・体ほぐしの運動 ・なわとび ・鉄棒 ・マット ・走り高跳び ・水泳 ・バスケット 他の学習内容もあるの で、実際の授業構成を 考えながら活用すると よいと思います
----	---	---	--

教育効果

- ①基礎基本の確実な習得
- ②子ども一人一人の力の伸長
- ③学ぶ楽しさの実感と自ら学ぶ意欲の向上
- ④思考力、判断力、表現力の育成
- ⑤学び方、問題解決能力の育成
- ⑥創意工夫を生かした質の高い授業づくり
- ⑦障害のある子どもへの障害に基くさまざまな困難の改善・克服、社会とのコミュニケーションの拡大

最終的にどのよう
なまともに向か
わせたいのか、よ
く考えましょう。



「初等中等教育におけるITの活用の推進に関する検討会議報告『ITで築く確かな学力～その実現と定着のための視点と方策～(概要)』(PDF形式)』(2002)

どうやれば
いいか分
かったよ。

しっかり覚え
れたよ。言える
ようになったよ。



手立て

振り返りの観点を示す
全体で共有する

伝えられるメッセージ

「あなたはなるほどと思ったのですね」「あなたは何が
分かって何が分からないのかが分かったのですね」

児童の姿

児童は次時の学習の見通しがもてる・児童
は次の行動が分かったと実感できる

★振り返りの観点を示す

- ①関心・意欲の高まり
- ②学習内容の大切なところ
- ③学習内容の到達度



教師や他の児童
など周囲から受
け入れられるから
こそ、自分なりの
考えをもち、行動
することができま
す。

10分間とれるとき
は、書いたことを全
員に発表させます。

まとめを自分の言葉
でノートに書かせま
す。中盤でまとめた
こと(黒板、ノート
見直す)をもとに、振
り返りで書かせたこ
とを発表させます。

今日勉強したこと、
さらに何を調べたい
と思いましたか。

この時間でわかったこ
と、新しく知ったことを
書きましょう。



★全員で共有する

授業全体の評価
次の時間につなげるような言葉かけ

よし、次は〇〇しよう。
今日のように次の時
間も〇〇したい。



今日、分かったことは、み
なさんの生活のどんな場
面でつかえますか。



「自分でできる」から「自分で決めてでする」

自己評価 自分なりによくながったところを書く。

相互評価 振り返りカードに友達のよかったところを記入させ、互
いに交換させる。

「〇〇君、いっしょうけんめいやっていたもんね」

教師による評価 コメントを添える。

周囲から認
めてもらおう

振り返りの具体的な視点をもたせる

「学習したことを自分の言葉でまとめましょう」

「今日の学習で分かったことを書きましょう」

「分かったことや分からなかったこと、疑問に思ったことを書きま
しょう」

「適用問題のところの取組を振り返ってみましょう」

「△△の計算の仕方はどうやればいいのか、書いてください」

分かるよ
うになった。

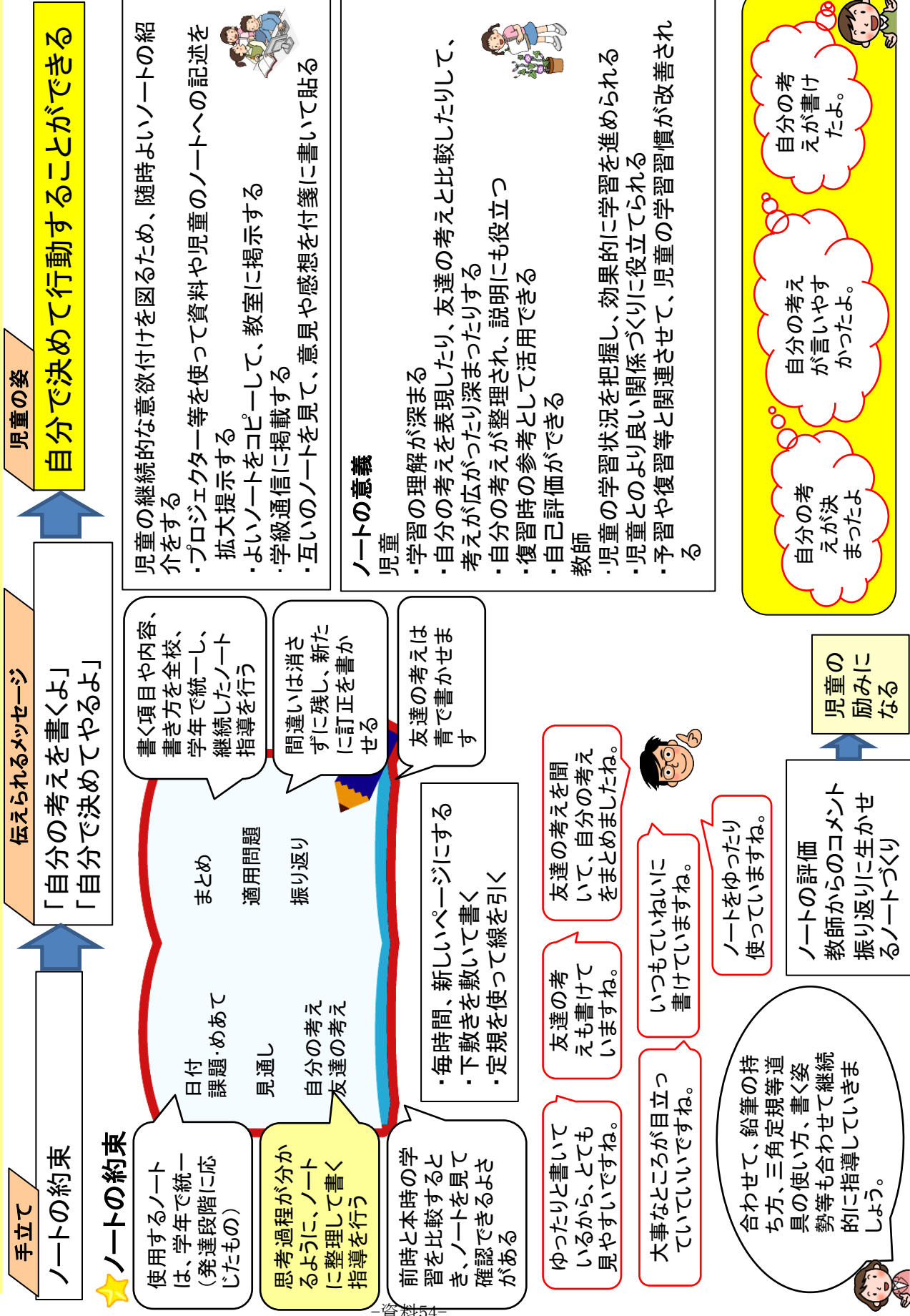
もっと調
べてみた
いな。

もっとできるよ
うになりたい。

もうちょっとであ
の時間、集中して
やってみよう。

今日は、〇〇がよく
分からなかったな。
明日は、練習の時間
があるから、できるよ
うにしたいな。





おわりに

平成26年6月から11月まで所属校(小学校)において行った授業実践では、生徒指導の三機能に手立てを分類した授業支援シート「T-knackシート」を参考にして、意図的・計画的に授業に取り入れられることで、児童が安心して自分の考えや思いを表現でき、より良い人間関係を築くことができました。また、教師の適切な支援をタイミングよく行うことで、児童が意欲的に取り組む姿が見られ、本時のねらいを達成させるために有効であることが分かりました。

この「T-knackシート」は、授業実践の成果と課題もふまえて作成しました。今後、多くの先生方の指導・支援の助手として活用していただければ幸いです。さらに、このシートにご自身のコツなども追加し、より良いシートにしていたいただけたら大変うれしく思います。

最後に、「T-knackシート」を作成するにあたり、ご指導いただきました指導主事の先生方をはじめ、協力していただきました研究協力校の教職員の皆様、長期研修員の皆様に厚く御礼申し上げます。



<参考文献>

- ・東京都教職員研修センター「自信 やる気 確かな自我を育てるために」
一子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料一(2012)
- ・岩手県立総合教育センター『授業が輝く』一生徒指導の機能を生かした授業づくりの手引き一(2005)
- ・岩手県立総合教育センター「授業における生徒指導」J(2007)
- ・新潟市教育委員会「授業づくりと生徒指導の一体化を目指して」J(2014)
- ・神奈川県立総合教育センター 小学校初任教師のための授業づくりハンドブック(2009)
- ・岡山県総合教育センター「ともに創ろう おかやまの未来 一見て分かる教師ガイド一」(2011)
- ・岡山県総合教育センター「学び合いを促進する教師の関わりについての研究」J(2012)
- ・香川県教育委員会「さぬきの授業 基礎・基本 ～子どもに学びのときめきを～」J(2013)
- ・佐賀県教育センタープロジェクト研究〈第2年次〉「児童生徒が安心できる人間関係づくり」
～がばいシートを使って～(2009)
- ・藤岡市立美土里小学校「確かな学力を身に付けた児童の育成」J(2008)
- ・滝 亮 著「教科授業の改善を通して 生徒指導の推進」『生徒指導学研究』第6号(2007)
- ・桜井 茂男 著『学習意欲の心理学』 誠信書房(1997)
- ・河村 茂雄 著『カウンセリングテクニックで極める教師の技 授業の技を極める40のコツ 授業スキル小学校編』 図書文化(2005)
- ・首藤 博史 著『総合的な学習の時間』における内発的学習意欲の向上を目指した実践研究J(2005)
- ・野中 信行・井上 雅一朗 著『新卒教師時代を生き抜く授業術 クラスが激変する日々の戦略』明治図書(2014)
- ・松原 達哉 著『カウンセリングを生かした授業づくり』 学事出版(1998)
- ・千葉県教育庁南房総教育事務所「活用する力を高めるセルフチェックシート」J(2008)
- ・加藤 辰雄 著『誰でも成功する言語力を高める話し合い指導』 学陽書房(2014)
- ・岸 俊彦・水上 和夫・大友 秀人・河村 茂雄 著『意欲を高める 理解を深める 対話のある授業 教育カウンセリングを生かした授業づくり』 図書文化(2013)
- ・小久保 裕之 石郷岡 亜矢子 松本 崇 小堤 紀子 学校教育相談研究会議
「子どもの成長発達を促す言葉かけとは 一教師の気づきを重視した振り返りを通して一」(2007)
- ・河村茂雄 著『教師のためのソーシャルスキル』 誠信書房(2002)

平成26年度 いじめ・不登校係 長期研修員 高井美智代
いじめ・不登校係 担当指導主事 古暮 清二

問い合わせ先 群馬県総合教育センター

担当係 いじめ・不登校係 0270-26-9217(直通)